

大山郁夫著作目録

松田 義男 編
改訂 2024年 1月 5日
2016年 7月 28日

目次

1. 著書
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)
3. 帝国議会議録・国会議会議録
4. 『全集』・『著作集』収録著作・初出一覧

凡例

- *著作の形態に応じて、「1. 単行書」、「2. 新聞・雑誌掲載」、「3. 帝国議会議録・国会議会議録」に分類し、それぞれを年次順に配列した。
- *単行書の再版・増補版は、原則として、初版に一括して[]に注記した。
- *単行書のうち叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *単行書収録評論について、目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- *単行書のうち、編著・共著・共訳・監修の別については、[]に示した。
- *新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *座談会・対談などについては、[]に実施年月日、出席者などを記した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- *初出の注記として収録書を示した。収録書のうち、『』全 巻(、)は『全集』、『』全巻(、)は『著作集』と略記した。
- *従来の著作目録に採録されていない著作については、表題冒頭に*を付した。編者未見の著作については、<未見>と注記した。
- *その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録の作成に際しては、『大山郁夫著書論文目録』(大山会、1966年)、黒川みどり編『著作目録』(『大山郁夫選集』岩波書店、年)を参照し、国立国会図書館、早稲田大学中央図書館・同高田記念図書館・同現代政治経済研究所、日本近代文学館、東京大学情報学環・学際情報学府図書室、法政大学大原社会問題研究所、神戸大学社会科学系図書館・同経済経営研究所図書館、同志社大学人文科学研究科・同今出川図書館、京都大学附属総合図書館・文学研究科図書室・経済学部図書室、大阪府立中央図書館・同中之島図書館、岡山大学附属図書館、群馬県立図書館、県立長野図書館、神戸市立中央図書館、金光図書館、埼玉県立熊谷図書館、佐賀県立図書館、福岡県立図書館、山口大学附属図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

『群衆心理』[ル・ボン著、訳書]大日本文明協会、1910年12月22日[改題『民族心理及群衆心理』文明書院、1915年、『民族心理及群衆心理』大日本文明協会、1918年]

*『国家学』<謄写版>、1916年5月27日講義了【第1編緒論 第1章社会諸科学ト国家諸科学トノ異同 第2章国家諸科学ノ分化、第3章政治学ノ本質、第2編国家論 第1部社会現象トシテノ国家ノ研究、第1章国家ノ本質、第2節国家ノ觀念ト国家ノ理想、第3節国家觀念ニ干スル在来ノ諸学説<以上、第1学期>、第4節真正ノ国家觀念、第2章国家ノ起源及滅亡 第1節緒節、第2節国家神の起源説、第3節国家契約的の起源説、第4節族長的の起源説、第5節優勝節、節6節歴史的の若ハ進化的の起源説、節7節新国家ノ発生、節8節国家ノ滅亡、第3章国家是認ノ根拠、第1節解題、第2節国家ノ合理的基礎ノ中心点、第3節国家権力ト個人ノ自由、第4章国家ノ組織要素、第1節天然的の要素ト人的の要素トノ干係、第2節天然的の要素、第3節人的の要素】

*世界に於ける二大思潮の代表としての独逸と米国『第一回島根県青年団講習録』島根県教育会編・刊、1919年7月15日

民衆文化の原理『民衆文化の基調』[第一回新人会学術講演集]聚英閣、1920年7月10日

*社会生活の頹廢とその更生『現代社会思潮』<1920年日本大学社会学会第2回大会講演集>日本大学社会学会編、清水書店、1921年3月5日

政治の否定『創造者の道』神道久三編<オーロラ協会講演第一輯>創生社1921年6月10日

人種案否決、日本蹂躪さる『阿修羅帖』第5巻、伊東忠太著、国粹出版社、1921年9月10日

「新国家学概論」の講演について『社会思潮十講 建設者同盟講演集』平野力三編、同人社書店、1922年6月10日

*政治学改造の原理[1922年国際聯盟協会主催夏期大学講義]『最近時代思潮論集』国際聯盟協会、1922年11月1日[『全集2』、『著作集5』収録]

鹿角を祝して、余の感想を述ぶ『新鹿角』青年乃鹿角社編・刊、1922年11月20日

『国家学』<講義案謄写版>1922年頃【第1篇 国家社会に対する種々の見方、第1章 自然法学的見解と近代科学的見解、第2章 理想主義の見解、第3章 理想主義批判、第4章 科学的見解の樹立、第5章 自然科学の影響、第6章 壘太利学派の貢献】[『著作集5』収録]

『政治の社会的基礎—国家権力を中心とする社会闘争の政治学的考察—』同人社書店、1923年2月28日

【序論(現代の社会的諸傾向と政治学との交渉、1 現代政治思想の主潮とその破綻、2 政治思想に於ける理想主義及び理知主義の陥穽、3 政治学に於ける社会心理的研究の必要、4 社会心理的現象と科学的社会思想、5 社会進化を背景としての政治現象の考察、6 政治学に於ける社会学的諸要素、7 社会群の闘争とその政治的意義)、第1篇(1 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯Ⅰ、2 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯Ⅱ、3 知識崇拜の迷信と階級意識、4 現代政治に於ける民族意識と階級関係)、第2篇(1 主権の学説と国際主義の新展開、2 強国の弱点、3 大戦後に於ける国際政局の新展開Ⅰ、4 大戦後に於ける国際政局の新展開Ⅱ)、第3篇現代日本の政治生活(1 明治時代に於ける政治外交の基調、2 現代日本に於ける政治的実践の移動)】[『全集1』、『著作集4』収録]

『民族と階級』<科学思想叢書3>科学思想普及會、1923年6月15日【1 序論、2 戦争と平和との関係、3 社会生活の根本原理と戦争、4 社会進化に於ける戦争の作用、5 国家組織の形式、6 民族団体の意義、7 民族文化の考察、8 民族意識とその政治的意義、9 民族国家思想の概念、10 階級及び民族問題の将来 11 結論、捕論 1 国民及び民族構成の過程、2 国民的感情と階級差別、付録 社会科学に対する興味の抬頭】[改題再刊:『民族闘争と階級意識—現代政治に於ける民族と階級との関係—』(科学思想普及會、1924年6月15日)] [『全集2』収録]

- 『大学の使命とその社会的意義』 新潮社出版部、1923年7月10日[『著作集6』収録]
- 『現代日本の政治過程及びその将来への展開』 改造社、1925年5月18日[『全集2』『著作集5』収録]
- 合同への前程としての分裂(巻頭言)『社会問題講座第9巻』 新潮社、1926年11月15日
- 無産政党論『社会問題講座 第13巻』 新潮社、1927年6月8日[合冊本『社会問題講座 第2巻 社会運動篇』『全集2』『著作集7』収録]
- 序『選挙戦に於ける労働農民党の初陣』 南宋書院、1927年8月15日
- 『大衆に呼びかける』 改造社、1927年9月18日【序文、解題 労働農民党と府県会選挙、本論 現政局の一般的情勢と労働農民党の立場 1.序説一党の日常政治闘争に於ける政治的暴露の意義について、2.現政局の概観および批判、3.労働農民党の闘争態度、付録第1 労働農民党綱領・政策及規約、付録第2 労働農民党の府県会議員選挙対策】
- 当局の弾圧に関し鉄道従業員組合諸君に激す『労働農民党は如何に闘つたか』 労働農民党調査部編、世界社、1927年12月13日<細迫兼光との連名>
- *最近の政治的傾向『早稲田大学政治経済講義2』 早稲田大学出版部、[1927年]【小序 第1篇 政治理論に於ける最近の傾向 第1章 集団現象とその政治的意義(第1節 集団過程、第2節 集団現象の政治的意義)、第2篇 政治事実に於ける最近の趨勢 第1章 無産階級政党の抬頭、第2章 無産階級政党の将来】<佐賀県立図書館所蔵>
- *序『労働農民党の運動方針』 労働農民党調査部編、世界社、1928年1月28日[国会図書館所蔵版では28日と訂正]
- 凡ての人民に自由を与へよ『我等の主張 普選に直面して』<朝日民衆講座 第3輯>東京朝日新聞社、1928年2月13日[1928年2月3日講演於第15回朝日民衆講座]
- 政治的自由獲得への進出[1928年2月7日演説於大阪市中之島公会堂]『各政党代表者大演説集』<毎日叢書 第2輯>大阪毎日新聞社、1928年2月11日[『嵐に立つ』『全集3』収録]
- 『闘争の跡』 世界社、1928年6月28日【闘争の跡(新闘争段階への発程に際して(序にかへて)、1 香川の選挙戦を如何に闘つたか?、2 委員長就任の辞、3 熱火の下を潜つて、4 第二回大会を迎へて、5 決戦は近づけり、6 激戦地より帰つて、7 拡大委員会に出席して、8 労働農民党の解散とその再起への展望、9 現在の政治と労働農民党—府県会選挙に際して—)、労働農民党は如何に闘つたか、労働農民党の運動方針】
- 『政治学』<無産者自由大学 第9講座>南宋書院、1928年9月20日
- 雄弁の姿『雄弁学講座 下巻』<改訂増補>潮文閣、1928年10月5日[『雄弁学講座 下巻』<改訂増補>(成光館出版部、1929年2月1日)、『雄弁学講座 全』<改訂増補・合本>潮文閣、1929年8月10日、『雄弁学講座』6版(1931年11月3日)の復刻新装版:成光出版企画、1983年]
- 労農政党合同問題と新党準備会の立場『マルクス主義講座 第10巻』上野書店内マルクス主義講座刊行会、1928年10月15日
- *政治学講座『アルス文化大講座 第12巻』アルス、1928年11月10日[奥付では11月10日刊、表紙・裏表紙では9月10日刊と記載]
- 民主主義批判『マルクス主義講座 第13巻』上野書店内マルクス主義講座刊行会、1929年3月25日[『大衆は動く』収録]
- 『嵐に立つ—日本に於ける無産階級政治闘争の一記録—』 鉄塔書院、1929年7月15日【上編 労働農民党前史時代(農民労働党の解散と無産政党運動の前途、単一無産政党主義の危機、労働農民党の誕生とその政治的環境、門戸開放問題について、労農党の分裂及びその前途、無産階級戦線上に於ける各党の地位、

中編 労働農民党は如何に戦ったか(労働農民党の闘争方針、大衆闘争の進展、失業問題の深化と労働農民党の対策、労働農民党の旗の下に、戦ひの旅を終へて、全被圧迫民衆解放戦線の一進展、第二回大会を迎へて、労働農民党と婦人運動、政治的自由獲得闘争への進出、激流に抗して、労働農民党の解散とその再起への展望、旧労働農民党の解散問題を中心として)、**下編 敗北から勝利への行進**(階級戦線を撓乱する無産大衆党の出現、無産大衆党のアピールに就いて、新労働党結成期への展望、新労働党綱領の基調、敗北から勝利へ、結党・解散・更生、戦線統一の流れに浮ぶ一抹の泡、バリケードの両側に、赤旗に包まれた戦士の遺骸、左翼戦線は如何に再進出しつつあるか)、**別編**(ブルジョア諸政党の政治的革新運動、人道主義の暴露、ブルジョア政府の独裁的検閲制度、帝国主義列強の軍縮会議—ジュネーブに於ける国際的悲喜劇、支那の無産階級への言葉、無産階級視野から見た『普選議会』の正体、近代都市の魅力とその克服)】

『新労働党樹立の提案』[上村進・細迫兼光との共著]1929年8月【前言、この提案が決定されたまで、私等は諸君の要求をかく認識してゐる、当面の客観的状況、『新労働党』の性質・任務・および組織形態について、起り得る理論上の諸疑問への解答】[『大衆は動く』収録、伊藤晃編『無産政党と労働運動』<思想の海へ28>(社会評論社、1990年)抄録]

*はしがき『社会民主主義諸政党』ヴアルガ(Eugen Verga)著(黒部明訳)、希望閣、1929年9月5日

*労働党の主張『般は投げられたり 各政党の第一声』<朝日民衆講座 第15輯>朝日新聞社、1930年2月5日[1930年1月22日講演速記於第60回朝日民衆講座]

*労働党の本質『無産政党早わかり』無産党ファンの会編・刊、1930年2月9日[国会図書館所蔵版では11日発行と訂正]

『立候補に際して』非売品、1930年2月[『大衆は動く』収録]

*大衆こそ最後の審判だ『無産党はどう闘ったか』麻生健著、塩川書房、1930年4月15日

『労働者・農民の代議士 大山郁夫は斯く叫ぶ—第五十八議会に於ける質問演説—』労働党本部調査編、春秋社、1930年5月8日

『大衆は動く』アルス、1930年8月8日【著者の覚え書き、**第1編 労働党の旗の下に**(1 新労働党樹立の提案まで、2 新労働党樹立の時期に直面して、3 労働党の樹立に際して同志へ(開会の辞—労働党結成大会に於て、閉会の辞)、4 労働党の政策の必然性、5 立候補に際して、6 総選挙戦の渦中から、7 選挙闘争から議会闘争へ、8 第五十八議会の印象)、**第2編 民主主義批判**(1 民主主義批判の必要、2 デモクラシーの概念—その批判的解説、3 デモクラシー思潮の生成発展の史的背景、4 反抗思想としてのデモクラシー、5 『自然法』及び契約論、6 ブルジョア革命の精神、7 ブルジョア国家生活に於ける友愛、8 自由と平等—矛盾する二つの命題、9 多数決主義と少数者支配)、**第3編 ブルジョア社会の諸断面**(1 英雄的階級・階級級的英雄、2 社会民主主義者の夢を一笑に付して、3 金解禁と議会解散問題の交錯、4 若き新聞記者諸君へ!、5 社会民主主義者の敗北!)、**第4編 演説集**(1 新労働党樹立の歴史的意義、2 同志山宣の死と吾々の決意[追悼演説会]、3 大衆の行進を見る、4 東京第五区の勝利は大衆の勝利だ!!、5 ブルジョア議会の最初の印象—議会報告演説のための手記—、6 大衆の審判を待つ—ひとつの議会報告演説—)、付録(1 新労働党樹立の提案、2 労働党の宣言・綱領・政策)】

発行者序『日本無産政党史』河野密・赤松克麿・労働党書記局著、白揚社、1931年1月20日<無署名>

労働党の主張『社会科学講座 第3巻』誠文堂、1931年5月1日

*わが児への「教育」『現代名士の教育革新論』齊藤和堂編、モナス、1931年7月10日

『日本の進路』労働文化社、1948年3月5日【序文にかえて、**前篇 日本の民主主義的建設の前進と過去に於ける大衆の闘争経験**(1 大衆に倚るとき強し、2 軍事研究団事件、3 労働党時代の血みどろの闘争、4 言論自由の武器を活かせ、5 大衆闘争の輝かしき過程、6 新日本建設の黎明、7 不屈の前進、8 国内民主主義より国際民主主義へ)、**中篇 新社会秩序の創造と国民道徳問題**(1 大衆啓蒙運動の重大性、2 社会秩

序の合理性とアメリカの独立宣言、3 大衆の知性と良心、4 私の新世界精神、5 家族国家主義観念の罪禍、6 人類連帯性の自覚、7 真珠湾空襲の衝撃、8 東條証言とわが国の道徳的債務、9 現代政党への要望)、**後篇 日本再建の立場から見た国際政治道徳問題**(1 ポンダム宣言の感激、2 日本人たるの苦悩、3 明るき日本の進路、4 大西洋憲章の意義、5 国際連合憲章の精神、6 国際民主主義の制度化、7 国際的協力の促進、8 ユネスコ加盟準備運動、9 アインシュタインのハイヤー・リアリズム、10 国際社会への復帰、11 平和運動の先導たれ!)

序文『山本宣治選集 V 闘争録』新興出版社、1948年9月15日

民主主義擁護の旗を進めよう 第一回準備会におけるメッセージ『民主主義の旗のもとに』民主主義擁護同盟準備会、アジア出版社、1948年10月12日

序『闘うアメリカの第三党』小林勇著、同友社、1948年10月20日

先生の追憶『浮田和民先生追懐録』故浮田和民先生追懐録編纂委員会編・刊(非売品)、1948年12月25日

序『アメリカの河』東良三著、青雲書院、1949年1月15日

*世界情勢と大学の地位『学生運動—当面の課題と史的意義—』全日本学生自治会総連合書記局、真理社、1949年1月15日

*『日本の平和的将来』[講述]群馬社会学園、1949年7月 日<群馬県立図書館所蔵>

世界平和建設に対する日本の歴史的使命『地球は沸騰する 米英かソ連中共か われらの生活と自由はどこへ』<『解放』特集 第1号>解放社、1949年10月

共同闘争への期待『勤労大衆の武器—統一戦線—ぶちまけた社、共、労農の話し—』民主政党中央懇談会編、1949年12月<未見>

*世界の変局と日本の平和的進路『日本再建の方途』京都新聞社、1950年1月5日

*山宣の血をムダにするな! 『山本宣治二十周年記念講演集』山宣会、1950年3月5日

無疵の人[「安部磯雄先生の思い出」]『早稲田大学野球部五十年史』飛田忠順編、早稲田大学野球部、1950年3月25日

世界平和と民族独立[4月1日講演要旨於大阪地方民主主義擁護同盟発会式]『大山郁夫平和問題パンフレット第1集』リスナー社、1950年4月

世界平和と中日関係『アジアは平和を求める—日本中国友好会議事録—』日本中国友好協会、1950年10月

序『政治五十年—二十世紀日本文明史1—』入交好脩著、時事通信社、1951年4月15日

『私は講和条約をかく批判する—世界平和および民族独立の立場から—』<パンフレット>平和擁護日本委員会、1951年11月7日

歴史をつくるものへ『吾が祖国のために—国際平和賞に輝く大山郁夫—』学園評論社、1952年2月23日

*所感『真実は壁を透して』月曜書房、1952年3月

行政協定と祖国防衛『愛国者の道』<青木文庫 第40>青木書店、1952年5月15日[堀真清編『原典でよむ日本デモクラシー論集』<岩波現代全書>(岩波書店、2013年)収録]

*序『日本の息子たち』わだつみ会編、三笠書房、1952年6月25日

発刊のこぼれ『社会科学基礎講座 第1巻』青木書店、1953年2月20日

*叱られなかった発行停止[1953年5月16日談]『村山竜平伝』朝日新聞大阪本社社史編集室編、朝日新聞社、1953年11月24日

『平和巡礼』[大山郁夫夫妻/淡徳三郎帰朝報告談] <「平和」臨時増刊>、平和擁護日本委員会・日本文化人会議編、大月書店、1954年2月1日

『現代隨想全集 第15巻 大山郁夫 末川博 柳田謙十郎集』創元社、1954年5月10日【早稲田の学徒に与う／激流に抗して／再び故国の大衆と共に／ガンディ翁の死に寄せて／ポツダム宣言の再確認／世界人権宣言／日本の進路を憂う／スターリン首相に寄す／平和の使を果して】

序『片山潜と共に』和光社、1955年1月30日

天性の革命家『回想の徳田球一』東洋書館、1955年10月20日

著作集

『大山郁夫全集』全5巻、中央公論社、1947年～1949年

『大山郁夫著作集 大正デモクラシー期の政治・文化・社会』全7巻、岩波書店、1987年～1988年

監修

『マルクス主義講座』全13巻[河上肇と共同監修]上野書店内マルクス主義講座刊行会、1927年～1929年

『山本宣治選集』全4巻、新興出版社、1948年～1949年

『社会科学基礎講座』全6巻[末川博と共同監修]、青木書店、1953年～1955年

2. 新聞・雑誌掲載<841 篇>

1996(明治 29)年

雪中の旅行『少年文集』2-1、1月10日<福本郁夫>

猿『少国民』8-2、1月18日<福本郁夫>

[懸賞発句披露]『少国民』8-21、11月1日<福本郁夫>

立秋の秋『少国民』8-22、11月15日<福本郁夫>

海嘯余沫『少国民』8-23、12月1日<福本郁夫>

木村重成表忠碑『少国民』9-2、12月15日<福本郁夫>

1997(明治 30)年

[懸賞文]『少国民』9-6、3月15日<福本郁夫>

1905(明治 38)年

産業進化に関する学説の比較(卒業論文の一章)『早稲田学報』121、122、8月1日、9月1日

A New Departure『早稲田学報』125、11月1日

The New Anglo-Japanese Alliance『早稲田学報』125、11月1日

Our Honorable Guests『早稲田学報』125、11月1日

講壇上の預言者(バウン博士)『早稲田学報』126、12月1日

Problems of the Day『早稲田学報』126、12月1日

1906(明治 39)年

日露戦争の史的解説『早稲田学報』128、1月1日

New Year Greetings『早稲田学報』128、1月1日

Women's Education in Japan『早稲田学報』128、1月1日

Welcome to the "Waseda Bungaku"『早稲田学報』129、2月1日

The Struggle of the Japanese Girls—A Pathetic Aspect of Women's Education—『早稲田学報』129、2月1日

春の福音『早稲田学報』130、3月1日

Opportunities for Great Men『早稲田学報』130、3月1日

The Value of Originality『早稲田学報』131、4月1日

Suicide of Young Men『早稲田学報』134、6月1日

The Prevalence of Pessimistic Thoughts『早稲田学報』134、6月1日

The Incongruity of the Ideal with the Actual 『早稲田学報』 134、6月1日

Men and his Environment 『早稲田学報』 135、7月1日

1909(明治 42)年

“Hard Times”に就いて 『早稲田学報』 168、2月1日

賃金基金説(Wages-fund Theory)に就いて 『早稲田学報』 169、3月1日

伊太利の移民状態 『早稲田学報』 170、4月1日

土耳其の時局の与ふる教訓 『早稲田学報』 175、9月1日

米国の遣外二使臣(ストラウス氏とクレーン氏) 『早稲田学報』 176、10月1日

1913(大正 2)年

*[雑報欄の記事「独逸、ミュンヘンの大山郁夫氏よりの消息の一節に」中の短歌 4 首] [雑報] 『紐育新報』 89、4月12日

1915(大正 4)年

面影[談話] 『早稲田学報』 239、1月10日

我が政治道德観 『六合雑誌』 410、3月1日 [『著作集 1』収録]

都市意識 『早稲田講演』 5-4、4月1日 [『全集 5』『著作集 1』収録]

力と其の誤用—独逸国民生活の長所と欠陥— 『早稲田講演』 5-5、5月1日

*欧米都市の発達 『地方行政』 23-8、8月1日

マキアヴェリズムと独逸の軍国主義[経済研究会 6 月例会講演] 『国家学会雑誌』 29-9、10、9月1日、10月1日 [『全集 5』『著作集 1』収録]

外交と道德 『早稲田講演』 5-9、9月1日 [『著作集 1』収録]

憲政治下の政党と国民 『新日本』 5-10、10月1日 [『著作集 1』、太田雅夫編 『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]

研究機関の完備はヒューマン・エフィシエンシーを増進する所以なり [「研究機関設備に対する学園意見の一般」] 『早稲田学報』 249、11月10日

1916(大正 5)年

独逸の提出すべき講和条件 [「大戦終熄後の講和会議に提出すべき交戦各国の講和条件」] 『新日本』 6-1、1月1日

支那国体変更問題と五国の勧告 『早稲田講演』 6-1、1月1日 [『著作集 1』収録]

所謂独逸文化宣伝策の主張を批評す [1915年 10月 10日 於日本社会学院第三大会] 『日本社会学院年報』 3-1・2、1月31日

街頭の群集—政治的勢力としての民衆運動を論ず—『新小説』21-2、2月1日[『著作集1』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)、『復録版 大正大雑誌』(流動出版、1978年)収録]

政治的機会均等主義『新小説』21-3、3月1日[『全集4』『著作集1』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]

大亜細亜主義の運命如何『新日本』6-3、3月1日[『著作集1』収録]

*[「現代の政治家」]『青年』4-3、3月1日

軍国的文化国家主義—独逸国民生活の一面—『新小説』21-4、4月1日[『全集4』『著作集1』収録]

政治を支配する精神力『中央公論』31-4、4月1日[『全集4』『著作集1』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]

上院改革か下院改革か／生活費問題と政治問題[無署名社説]『新小説』21-5、5月1日

都市生活の家族的情緒『新小説』21-5、5月1日[『全集5』、『著作集1』収録]

都市自治と協同的精神『新小説』21-6、6月1日[『全集5』、『著作集1』収録]

*大亜細亜主義とは『工業之大日本』13-6、6月1日

英独大海戦の世界歴史上の意義『新小説』21-7、7月1日[『全集5』収録]

近代的広告術としての三党首会合[「三党首領会議の批判」]『中央公論』31-7、7月1日

*都市生活と親隣感情[5月講演於東京統計協会月次講話会]『統計集誌』425、7月25日[『家族・家族制度論1』<家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第1巻>(クレス出版、2000年)収録]

露国政局の前途『新小説』21-8、8月1日[『全集5』収録]

国民意識と国家政策『中央公論』31-9、8月1日[『著作集1』、今井清一編『大正思想集1』<近代日本思想大系 33>(筑摩書房、1978年)収録]

*[「崑山氏の西遊に対する希望」]『日本評論』16、8月1日

都市と生活問題[「付録 田園と都市の問題」]『早稲田文学』129、8月1日

*憲政教育の基礎に就て『現代教育』37、9月1日

*選挙権拡張問題の一面／官僚と民族／政党と国民[「時論」]『新小説』21-9、9月1日<戸陵隠客>

政治と生活『新小説』21-9、9月1日[『全集4』『著作集1』収録]

*日露協約と国民外交『新日本』6-9、9月1日

*政友会と選挙権[談]『横浜貿易新報』9月24日

与党合同問題の再燃／社会的公正と東京市電車問題[「時論」]『新小説』21-10、10月1日<戸陵隠客>

二大政党制樹立の機運『新小説』21-10、10月1日[『著作集1』収録]

アメリカニズムとパンアメリカニズム[「太平洋及び東亜大陸にも膨張の翼を張りつゝある米国の研究」]『中央公論』31-11、10月1日[『著作集1』収録]

元老を謳歌せよ／国体論の濫用を排す／政党の試練期[「時論」]『新小説』21-11、11月1日<戸陵隠客>

近代国家に於ける政論の地位及使命『新小説』21-11、11月1日[『著作集1』収録]

ウイルソンの勝利と日米関係／憲政会への対政府態度[「時論」]『新小説』21-12、12月1日<戸陵隠客>

多数政治の指導者としてのウイルソン『新小説』21-12、12月1日[『全集5』『著作集1』収録]

*再任のウイルソン大統領に与ふ『新日本』6-12、12月1日

近代民主主義の大勢と団体生活『第三帝国』79、12月1日

*都市意識の振作を論ず『地方行政』24-12、12月1日

1917(大正6)年

*憲政と国民教育『教育実験界』38-1、1月1日

*講和の危虞[「時論」]『新小説』22-1、1月1日<戸陵隱客>

輿論政治の将来『新小説』22-1、1月1日[『著作集1』収録]

*内閣不信任の烽火[「時論」]『新小説』22-3、2月1日<戸陵隱客>

国家生活と共同利害観念『新小説』22-3、2月1日[『著作集1』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)収録]

政党界の近状と我国憲政の前途『中央公論』32-2、2月1日[『著作集1』収録]

*現代の要求する哲人政治『日本評論』22、2月1日

*歐亜戦局と米国／辛辣なる政争[「時論」]『新小説』22-4、3月1日<戸陵隱客>

首相及び内相の訓示と国民の憲政上の所得『新小説』22-4、3月1日

岐路に立てる我国の憲政『大学評論』1-3、3月1日[『著作集1』収録]

余が選挙有権者ならば[「全国の有権者に向つて優秀善良なる代議士を選挙する標準を説く」]『中央公論』32-3、3月1日

露国革命の教訓[「時論」]『新小説』22-5、4月1日<戸陵隱客>

選挙場裏に於ける空言の実例—「国民に立脚する政治の語義」—『新小説』22-5、4月1日

世界の民主化的傾向と露西亜最近の革命『中央公論』32-4、4月1日[『全集5』『著作集1』、司馬遼太郎編『司馬遼太郎が語る雑誌言論一〇〇年』(中央公論社、1998年)収録]

*政治思想と教育『現代教育』45、5月1日

総選挙戦に参加して『新小説』22-6、5月1日

超然主義を一擲せよ[「総選挙後の寺内内閣に執るべき態度」]『中央公論』32-5、5月1日

*金沢選挙戦参加の印象『経済時論』1-6、6月1日

頻繁なる発売禁止[「時論」]『新小説』22-7、6月1日<戸陵隱客>

国論の統一と臨時外交調査会[「時論」]『新小説』22-8、7月1日

デモクラシーの政治哲学的意義『大学評論』1-7、10、11、7月1日、10月1日、11月1日[『全集4』『著作集2』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)収録]

臨時外交調査委員会の政治的価値と之に対する加藤氏及び犬養氏の態度[「最高外交調査機関設置の是非」]『中央公論』32-7、7月1日[『著作集1』収録]

*[「娘の読むべき書物」]『婦人公論』2-7、7月1日

- *欧米都市視察雑感『産業評論』2-9、9月1日
- 私学経営者の理想『新小説』22-10、9月1日
- 母校改革の根本方針に関する私見『大学評論』1-9、9月1日
- 大学と社会『新小説』22-11、10月1日[『著作集2』収録]
- 政治思想の混沌時代『中央公論』32-11、10月1日
- 忠君愛国主義の国民化『新公論』32-12、11月1日
- 新聞紙に関する私見及び希望『新小説』22-12、11月1日
- 国民的良心の進化と国際政治の一転機『新時代』1-2、11月1日
- 現代人の心理と国家思想『新日本』7-12、11月1日
- 大学生活と思想の自由『大学及大学生』1、11月1日[『早稲田大学史記要』2-2、1968年3月再録]
- シカゴ大学の思ひ出『大学及大学生』1、11月1日[『著作集2』収録]
- 撲つたい感じのする専制的社会政策[「現内閣の社会政策的施設を評す」]『中央公論』32-12、11月1日
- *民族主義伝統主義及宗教[文責在記者]『開拓者』12-11、12月1日
- 現代公共生活の諸相『新小説』22-13、12月1日[『著作集2』収録]
- 大学と研究と方法学『大学及大学生』2、12月1日[『早稲田大学史記要』2-2、1968年3月再録]
- 世界に於ける政治の民衆化傾向及び其特徴的諸現象『中外』1-3、12月1日[『著作集2』収録]

1918(大正7)年

- 現代日本の政治及び政治思想の上には表はるゝ国民性の欠陥『新小説』23-1、1月1日
- 兵式体操と愛国心と官僚的形式主義・功利主義の教育思想『大学及大学生』3、1月1日
- 現政局の行詰りと混沌状態とを救済すべき民本主義の使命『大学評論』2-1、1月1日[『著作集2』収録]
- 現代日本に於ける政治的進化と其社会的背景『中央公論』33-1、1月1日[『著作集2』収録]
- 政治と国民生活との接近[「評論」]『中央公論』33-1、1月1日
- 国民生活の原動力『六合雑誌』444、1月1日
- *日本人の政治的能力『経済時論』3-2、2月1日
- 転換期に瀕せる民衆政治—英独二国に於ける政治的傾向に関する考察—『新小説』23-2、2月1日[『著作集2』収録]
- 大学教授転職問題『大学及大学生』4、2月1日
- 永田警保局長の近業を読む[「新春劈頭の論壇に現れたる排民本主義者の政論を読む」]『大学評論』2-2、2月1日<<戸陵隠士>>
- 現下の我政界の活画[「評論」]『中央公論』33-2、2月1日[『著作集2』収録]
- *欧米人と日本人『実業公論』4-3、3月1日
- 第四十議会を評す『新小説』23-3、3月1日

- *議会と戦争目的[「日本の参戦目的は何ぞや」]『新小説』23-3、3月1日
- 官僚思想の解剖『大学評論』2-3、4、3月1日、4月1日<<戸陵隠士>>[『著作集2』収録]
- 憲政三十年の獲物／進行中の第四十議会[「評論」]『中央公論』33-3、3月1日
- 第四十議会を回顧して『大阪朝日新聞[夕刊]』3月24～31日、4月1～8日<<13回連載>>[3月24～28、30、31日付掲載を『新聞集成大正編年史 大正七年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1976年)、4月1、4、8日付掲載を『新聞集成大正編年史 大正七年度版 上ノ下』(明治大正昭和新聞研究会、1984年)収録]
- 国民生活問題と第四十議会『新小説』23-4、4月1日
- 学者的政治家としてのウイルソン『大学及大学生』6、4月1日
- 九州疑獄事件と現代日本の社会的欠陥／選挙権拡張に対する各党の態度[「評論」]『中央公論』33-4、4月1日
- デモクラシーの揺籃／劇場にて／市吏員の制服[「社会時評」]『新小説』23-5、5月1日<<戸陵隠士>>
- 露国過激派の実勢力に対する過小視と其政治思想の価値に対する過大視『中央公論』33-5、5月1日[『全集5』『著作集2』収録]
- 米国の対露政策の成功[「評論」]『中央公論』33-5、5月1日
- 後藤男と記者団の衝突『新小説』23-6、6月1日<<戸陵隠士>>
- 就任以来の後藤外相『大学評論』2-6、6月1日<<戸陵隠士>>
- 遊戯化しつつある我国近時の政界『中央公論』33-6、6月1日
- 地方長官会議及び諸大臣の訓示[「評論」]『中央公論』33-6、6月1日
- 大学と国家思想／所謂法科万能打破の真義[「社会時評」]『新小説』23-7、7月1日<<戸陵隠士>>
- 官僚臭に包まるる大学制度改革案『大学評論』2-7、7月1日<<戸陵隠士>>
- 阪神電車にて[短歌]『大学評論』2-7、7月1日
- 責任感の稀薄なる我国政治家の言論－寺内首相失言問題に関する考察－『中央公論』33-7、7月1日[『全集5』『著作集2』収録]
- 出兵問題と秘密外交の失敗『新小説』23-8、8月1日
- *三大政治的思潮[8月2日講演概要於朝日講演会]『大阪朝日新聞』8月4日
- 理想政治及び現実政治の二大勢力の衝突『中央公論』33-9、8月1日[『著作集2』収録]
- 参戦以来の米国の努力と実績[「評論」]『中央公論』33-9、8月1日
- 出兵の経過を顧みて日、米の対露外交を批判す『大学評論』2-9、9月1日<<戸陵隠士>>[『著作集2』収録]
- 時事雑詠『大学評論』2-9、9月1日
- 米騒動の社会的及び政治的考察[「暴動事件の批判」]『中央公論』33-10、9月1日[[「八月暴動に対する学者の批判」]『労働及産業』86、10月1日に抄録、『著作集2』収録]
- 寺内伯と国民理想『新小説』23-10、10月1日
- 原内閣の成立と将来の政党政治[社説]『大学評論』2-10、10月1日<<戸陵隠士>>
- 独塊の平和的攻勢と其東方経略策『大学評論』2-10、10月1日

今次政変の誘因、経過、及び帰結に関する考察『中央公論』33-11、10月1日[『著作集2』収録]

憲政上より新内閣に望むことの数々[「原内閣に対する要望」]『中央公論』33-11、10月1日

*[「中等教育を受けた人が常識的経済思想を養ふに適當の経済書は何か」]『日本評論』89、10月1日

独逸の平和的攻勢は欧露問題『露西亞評論』1-8、10月1日

1919(大正8)年

世界の大势と国民思想統一問題『大学評論』3-1、1月1日<<戸陵隱士>>

国際政治上の新紀元と日本の政治的将来『中央公論』34-1、1月1日[『全集5』『著作集2』収録]

学者的政治家としてのウイルソン『開拓者』14-2、2月1日

国際生活の前途と日本国民『青年雄弁』4-2、2月1日

世界的背景の前に立てる我国の憲政『大学評論』3-2、2月1日[『著作集2』収録]

原内閣の施政方針に対する批判[「評論」]『中央公論』34-2、2月1日

米国の代表的公民ローズヴェルト『我等』1-1、2月11日[『著作集2』収録]

憲政三十年の祝賀／三党首の大会に於ける演説／新議會に対する希望／選挙法改正問題／予備講和會議での三大問題／ウイルソンの努力／国際聯盟問題と国際的輿論／国際聯盟研究の進捗[「海内及海外」]『我等』1-1、2月11日[「憲政三十年の祝賀」、「選挙法改正問題」を作品社編集部編『読本 憲法の100年 2 憲法の受難』(作品社、1989年)収録]

新旧二種の国家主義の衝突[「講和會議にあらはるゝ世界改造の理想と實際との矛盾と調和」]『中央公論』34-3、3月1日[『著作集2』収録]

民衆政治と国民文化『我等』1-2、3月1日[『新思想の解剖 第二』(教文社、1922年)、『著作集2』収録]

労働問題と知識階級／当局者の労働組合観／骨抜き国際聯盟か[「海内及海外」]『我等』1-2、3月1日

民族主義と国際主義—その講和會議に於ける曲折—『我等』1-3、3月15日[『著作集2』収録]

選挙法改正案の提出／普通選挙運動の趨勢／普通選挙法案の頓挫／国際聯盟規約の草案[「海内及海外」]『我等』1-3、3月15日

*閑話一題 妓は資本階級の慰み者『信州』1-3、4月1日

新国家主義から見た国際聯盟規約『黎明講演集』2、4月1日

政治家の新たなる苦惱—英首相の産業連合委員会に於ける演説を評す—『我等』1-4、4月1日

選挙法改正案の過程／対独軍事條件の成行／対独賠償要求の前途／世界に対する日本の使命[「海内及海外」]『我等』1-4、4月1日

社会的傾向としての政治家及び文芸家の接近『我等』1-5、4月15日[『著作集2』収録]

国際労働規約と日本／人種差別撤廃要求／日本の提案失敗の理由／米国の聯盟修正案[「海内及海外」]『我等』1-5、4月15日

政客の喧噪と国民の冷靜『我等』1-6、5月1日[『著作集2』収録]

国民文芸会の創立／警察官吏と新思想／対独講和條件の決定／米国の教育上の新施設按[「海内及海外」]『我等』1-6、5月1日

原内閣と思想問題『我等』1-7、5月15日

講和会議の新局面展開／フューメ問題の経過／山東問題の落着[「海内及海外」]『我等』1-7、5月15日

社会的変動と政治的組織『我等』1-8、6月1日

対独講和交渉の開始／ランツァウ伯の陳述／内田外相の外交態度の声明[「海内及海外」]『我等』1-8、6月1日

現代議院政治の試金石『我等』1-9、7月1日

講和条約の行悩み／米国上院と国際聯盟[「海内及海外」]『我等』1-9、7月1日

社会改造の根本精神『我等』1-10、8月1日[『全集4』『著作集3』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)、鹿野政直編『近代日本思想大系 34 大正思想集 2』(筑摩書房、1977年)、今井清一編『大正デモクラシー 草の根と天皇制のはざま』<思想の海へ 9>(社会評論社、1990年)収録]

政党遊説の開始／加藤総裁の政府軋弾／伊太利の煩悶[「海内及海外」]『我等』1-10、8月1日

新聞休刊事件の印象批評[「帝都新聞連合休刊問題」]『日本及日本人』763、8月15日

休刊問題と政府[「新聞紙休刊問題」]『我等』1-11、9月1日

知識階級と労働者『我等』1-11、9月1日[『全集3』『著作集3』収録]

政憲両党の睡合ひ／白人人間の争闘／英米の新物価政策[「海内及海外」]『我等』1-11、9月1日

労働問題の文化的意義『我等』1-12、10月1日[『全集3』『著作集3』『社会教育基本文献資料集成 第21巻』(大空社、1992年)収録]

国際労働会議と日本／労働代表選定会議[「海内及海外」]『我等』1-12、10月1日

無産労働階級の研究[著者:ゾンバルト・訳]『我等』1-12～14、2-1、3-7、8、10月1日、11月1日、12月1日、1920年1月1日、1921年7月1日、8月1日

文化要素としての労働者『我等』1-13、11月1日[『全集3』『著作集3』収録]

原内閣の労働組合法案／憲政会の立場[「海内及海外」]『我等』1-13、11月1日

労働者と教育—官僚式教育の破産—『我等』1-14、12月1日[『全集3』『著作集3』『近代日本教育論集 2』(国土社、1969年)収録]

国際労働会議の進行／河合参事官の辞職[「海内及海外」]『我等』1-14、12月1日

*如何に社会を改造すべきか[講演大要、文責在記者]『基督教世界』1885、12月11日

1920(大正9)年

[「現代名士の社会主義観」]『新公論』25-1、1月1日

民衆文化の世界へ『中央公論』35-1、1月1日[『著作集3』収録]

改造思想発生の原理『日本及日本人』773、1月1日

労働問題と教育問題との交錯—文化価値創造の上に於ける労働者の貢献—『我等』2-1、1月1日[『全集3』『著作集3』収録]

特殊国となれる日本／来らんとする政治季節[「海内及海外」]『我等』2-1、1月1日

*[「新時代の教育に任ずべき今後の教育者に与ふる言葉」]『教育時論』1250、1月5日

研究の自由と研究発表の自由—森戸助教授筆禍論—[「前帝大助教授森戸辰男氏クロボトキン思想研究筆禍事件批判」]『新小説』25-2、2月1日[「研究の自由と研究発表の自由—前東京帝大助教授森戸辰男氏クロボトキン思想研究筆禍事件批判—」と題して『全集3』、原題のまま『著作集3』収録]

知識階級の自覚といふこと『雄弁』11-2、2月1日[『全集3』『著作集3』収録]

頹廢的傾向と青年の新運動『我等』2-2、2月1日

労働団体の普通選挙運動／米国の過激派狩り[「海内及海外」]『我等』2-2、2月1日

*編集室より『我等』2-2、2月1日<<大山>>

労働及び娯楽の解放と生の欣び『解放』2-3、3月1日

英米に於ける言論の自由[「欧米諸国言論抑圧の歴史的批判」]『解放』2-3、3月1日

英米に於ける言論の自由と無政府主義の学説[「思想問題に対する司法官憲の態度」]『中央公論』35-3、3月1日

社会科学に於ける研究の自由—思想言論の自由『我等』2-3、3月1日[『著作集3』収録]

製鉄所事件の社会的意義／普選案の上程まで[「海内及海外」]『我等』2-3、3月1日

奇怪な解散理由『日本及日本人』778、3月15日

性的本能と理知[「文化生活と両性問題」]『解放』2-4、4月1日

改造論の二つの主流—民族文化の立場から見たその意義—『大観』3-4、4月1日

議会の解散を中心として—現下の我政界に於ける頹廢的雰囲気—『中央公論』35-4、4月1日

第四十二議会の総勘定『雄弁』11-4、4月1日

社会科学に於ける研究の自由『黎明講演集』2-4、4月1日

議会解散の一批判『我等』2-4、4月1日[『著作集3』収録]

第四二議会と婦人参政権／過激派政府と聯合國[「海内及海外」]『我等』2-4、4月1日

民衆文化の帰趨と教育『我等』2-5、5月1日[『全集4』『著作集3』収録]

財界の動揺と社会的不安／思想界の当面の問題[「海内及海外」]『我等』2-5、5月1日

現代社会生活と知識階級『解放』2-6、6月1日[『著作集3』収録]

*帝大に於ける神道講座計画と思想界の反動的傾向『著作評論』1-3、6月1日

総選挙からの政治教育的収穫『我等』2-6、6月1日

総選挙から見た都会と地方／日英同盟の継続問題[「海内及海外」]『我等』2-6、6月1日

ドイツの総選挙／外人の日本軍閥評／労働者の普選熱の冷却[「時事批判」]『解放』2-7、7月1日

議会に対する批難とその改造の方向『雄弁』11-7、7月1日[『著作集3』収録]

民衆文化主義と自分—権田保之助氏の批難に答ふ『我等』2-7、7月1日[『著作集3』『社会教育基本文献資料集成 第21巻』(大空社、1992年)収録]

ウィルソンの議会批難／過激派政府と聯合國[「海内及海外」]『我等』2-7、7月1日

民衆文化の基調に関する一考察『丁酉倫理会倫理講演集』215、7月10日

民衆文化の社会心理的考察『中央公論』35-8、7月15日[『著作集3』『社会教育基本文献資料集成 第21巻』(大空社、1992年)収録]

道徳的勇気の振起[「尼港事件 哀悼と公憤と問責」]『日本及日本人』787、7月15日

議会の『神聖』／政党改造の要点／新人議員のテスト[「時事批判」]『解放』2-8、8月1日

ある夏期大学の追憶『新小説』25-8、8月1日[『全集5』『世界紀行文学全集 第17巻 北アメリカ』(修道社、1959年)収録]

時評二則【議会議否認の中心／『化石せる司法官』】『雄弁』11-8、8月1日

呪はれたる第四十三議会『我等』2-8、8月1日

師範教育と社会的知識／アメリカに於ける第三党計画[「海内及海外」]『我等』2-8、8月1日

社会主義同盟の死産[「日本社会主義同盟の組織を評す」]『改造』2-9、9月1日

迷信と危険思想と国家／避妊問題流行の徴候[「時事批判」]『解放』2-9、9月1日

議会政治改造の中心問題[「議会政治の改造諸問題」]『大観』3-9、9月1日

社会問題として見たる最近に於ける迷信流行の傾向『中央公論』35-10、9月1日

社会時評【一等車復活問題から見た世相／現代社会の欠陥と迷信の流行】『雄弁』11-9、9月1日

民衆文化への疑義について一再び権田保之助氏に答へる『我等』2-9、9月1日[『社会教育基本文献資料集成 第21巻』(大空社、1992.12)収録]

原内閣辞職説の否認／内務省の迷信取締[「海内及海外」]『我等』2-9、9月1日

*時事一家言『教育時論』1276、9月25日

論功行賞の皮肉／イタリアに於ける赤化運動／米賓款待[「時事批判」]『解放』2-10、10月1日

教育上の迷信及び迷信破壊『我等』2-10、10月1日[『全集4』『著作集3』収録]

地方制度の改造／イタリア労働者の工場占領[「海内及海外」]『我等』2-10、10月1日

労農ロシアを訪うて[著者:バートランド・ラッセル・大山郁夫訳]『我等』2-10、10月1日

山県公の入京／万国日曜学校大会の色彩／排日問題と国家主義と人道主義[「時事批判」]『解放』2-11、11月1日

婦人の地位と其経済的独立『女性日本人』1-3、11月1日

社会教育の意義に関する一考察【前篇:新聞紙と社会教育、後篇:二種の社会教育観】『我等』2-11、12月1日、12月1日[『社会教育基本文献資料集成 第21巻』(大空社、1992年)収録]

新聞紙法改正問題／労農政府危機の風説[「海内及海外」]『我等』2-11、11月1日

感激なき政界の一年[「大正九年大観」]『解放』2-12、12月1日

婦人の商品性とその人間性—女子教育に関する一考察—『婦人公論』5-12、12月1日[『全集4』『著作集3』収録]

家庭と社会『国粹』1-3、12月1日

1921(大正10)年

- 疑獄と制度の陥穽[「疑獄心理の解剖」]『解放』3-1、1月1日
- 社会制度と社会思想『我等』3-1、1月1日[『著作集3』収録]
- 東京市の疑獄／国際聯盟総会の経過[「海内及海外」]『我等』3-1、1月1日
- 婦人運動の爲めによき教訓[「女教員と政治運動」]『女性日本人』2-2、2月1日
- 政治否定の傾向[「時論」]『大観』4-2、2月1日[『全集4』、『著作集3』収録]
- 社会思想に於ける理想主義の弱点『我等』3-2、2月1日[『著作集3』収録]
- 東京市とその新市長／国際平和協会の誕生[「海内及海外」]『我等』3-2、2月1日
- 軍備制限案と議會／昇格問題と政局／僧侶の参政権要求運動／婦人参政権と家族制度[「事件及思潮」]『大観』4-3、3月1日
- 社会觀察に於ける科学的態度『我等』3-3、3月1日[『著作集3』収録]
- 『島国根性』に関する一考察[「島国根性検討」]『解放』3-4、4月1日
- *地方制度改正案の末路／軍律と人生／議會と芸妓／眞の拒婚同盟[「社会評論」]『現代』2-4、4月1日
- 第二啓蒙運動と議會主義／貴族院の政府弾劾／『風教』好きの貴族院／言論自由擁護運動の再燃[「事件及思潮」]『大観』4-4、4月1日
- 社会生活と議會政治との背馳『新社会倫理の基礎』の前篇『我等』3-4、4月1日
- 政党政治家の自己暗示／『珍品』の贈答／ブルジョアの天国[「事件及思潮」]『大観』4-5、5月1日
- 議會政治破綻の社会的原因『新社会倫理の基礎』の中篇『我等』3-5、5月1日
- イギリス炭坑夫同盟罷業／政党政治家のゼレンマ[「海内及海外」]『我等』3-5、5月1日
- 議會政治家の恐怖 新社会倫理の基礎の後篇の一『我等』3-6、6月1日
- 編輯室から『我等』3-6、6月1日<<大山>>
- *社会主義同盟の最期／明大の学校騒動[「社会時評」]『現代』2-7、7月1日
- 社会的頹廢の酵母／コンマーシアリズムの全盛／官僚内閣への復帰？[「事件及思潮」]『大観』4-7、7月1日
- 社会的經濟力の表現としての現実政治—現政局の綜合的批判—『中央公論』36-7、7月1日[『全集4』、『現代』に於ける政治的実践の移動』と改題『政治の社会的基礎』『著作集4』収録]
- *彼等の立場から[「発売禁止の考察」]『婦人公論』6-7、7月1日
- 商業道德の破産『新社会倫理の基礎』の後篇の2『我等』3-7、7月1日
- 『綱紀振肅』の諸動機／東京市民の責任？[「海内及海外」]『我等』3-7、7月1日
- お伽噺の日本・夢の日本／教育評議会の使命／暑中休暇の「利用」[「事件及思潮」]『大観』4-8、8月1日[「お伽噺の日本・夢の日本」、『教育評議会の使命』を『全集5』収録]
- 社会的頹廢と形式教育の失敗『新社会倫理の基礎』の後篇の3『我等』3-8、8月1日
- 無産労働階級[ゾンバルト著/大山郁夫訳]『我等』3-8、8月1日
- 未来社会の立場から[「太平洋會議の社会的批判」]『解放』3-9、9月1日
- *時局を背景として見たる原首相の演説／高橋蔵相と階級闘争／婦人の知識欲の目ざめ[「事件及思潮」]『大

観』4-9、9月1日

征服国家から国際社会まで－太平洋會議を背景として－『中央公論』36-10、9月1日[『著作集3』収録]

自由教育の制度的基礎 『新社会倫理の基礎』の後篇の4『我等』3-9、9月1日

労働争議と官憲／外交官と社会的知識[「海内及海外」]『我等』3-9、9月1日

明治時代に於ける政治外交の基調『解放』3-10、10月1日[『政治の社会的基礎』『全集4』『著作集4』収録]

改革者の悲哀／新聞紙の無定見[「事件及思潮」]『大観』4-10、10月1日

現代青年と社会的不安の脅威『我等』3-10、10月1日

内務省と青年団[「海内及海外」]『我等』3-10、10月1日

ワシントン會議の一断面－社会問題としての軍備縮小運動－『女性日本人』2-11、11月1日

教育費節減案の残虐性／中学生と時代思潮[「事件及思潮」]『大観』4-11、11月1日

思想界の動揺と婦人の生活『婦人公論』6-12、11月1日

無感激なる妥協的態度の生活傾向『我等』3-11、11月1日

教育費節減問題の一面[「海内及海外」]『我等』3-11、11月1日

*ヒロインズムの悪果[原首相暗殺事件に関する感想]『憲政公論』1-8、11月10日

支配階級のディレンマ[「大正十年の日本」]『解放』3-12、12月1日

過渡期の代表的政治家としての原敬氏／高橋内閣の成立[「事件及思潮」]『大観』4-12、12月1日[「過渡期の代表的政治家としての原敬氏」を『全集5』収録]

偶像崇拜から出た騒ぎ[「原首相暗殺事件に関連して」]『中央公論』36-13、12月1日

結婚と友愛との関係の社会的意義『婦人公論』6-13、12月1日

事件・新聞紙・及び社会－『白蓮問題』及び原首相暗殺事件の批判『我等』3-12、12月1日

歳晩の政界／新政党計画の夢／ワシントン市の秋[「海内及海外」]『我等』3-12、12月1日

1922(大正11)年

*過渡期の不安状態に在る現代日本『現代』3-1、1月1日

社会問題としての女性美『女性日本人』3-1、1月1日

*一つの信条[「現代青年は何を為すべきか」]『寸鉄』4-1、1月1日

光の消えた一年／四国協商の成立まで／社会主義と政府[「事件及思潮」]『大観』5-1、1月1日

現代文化生活に於ける天才主義『中央公論』37-1、1月1日[「デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(1)」と改題『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]

生活の機械化と『天才崇拜』の迷信『我等』4-1、1月1日

開国五〇年史の英訳[「大隈侯人物評－インテリゲンチヤ七十名士の回答－」]『大観』5-2、2月1日

アングロサクソンの資本的世界征服／第四十五議會に於ける外交問題／国家主義の幽霊／党議の拘束からの解放[「事件及思潮」]『大観』5-2、2月1日

- 主権の学説と国際主義の新聞展—その社会学的考察『我等』4-2、2月1日[『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]
- *女性文化に対する一考察『国民新聞』2月13日[『著作集6』、石川六郎編『婦人問題講演集 第8輯』(民友社、1922年9月30日)、『婦人問題講演集 第4巻』(日本図書センター、2003年)収録]
- 大戦後に於ける国際政局の新展開『解放』4-3、3月1日[「大戦後に於ける国際政局の新展開(Ⅰ)—ワシントン会議を中心として—」と改題『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]
- 軍国主義の煩悶/国葬と縮軍/国際協調と軍備縮小[「事件及思潮』『大観』5-3、3月1日]
- 強国の弱点『我等』4-3、3月1日[『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]
- 軍縮案の意義『軍備から文化』への転換[「海内及海外』『我等』4-3、3月1日]
- 婦人参政権獲得の前に『婦人新報』294、3月10日
- *現代と天才主義『寸鉄』4-4、4月1日
- 天才主義と現代の政治及び社会生活『中央公論』37-4、4月1日[「デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(Ⅱ)」と改題『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]
- 過激なる思想取締法案/多数党の心理[「事件及思潮』『大観』5-4、4月1日]
- 智識階級崇拜の迷信と階級意識『大観』5-4、4月1日[麻生久編『新社会的秩序へ 棚橋小虎紀念論集』(同人社書店、1922年6月23日)、「知識崇拜の迷信と階級意識」と改題『政治の社会的基礎』『全集1』、『著作集4』収録]
- 近代思想と概念崇拜『我等』4-4、4月1日[『全集4』収録]
- 知識階級の立場/資本階級の文化主義/爆弾を抱いて死んだ男[「海内及海外』『我等』4-4、4月1日]
- *立憲政治と現実暴露『函館新聞』5月15日
- *憲政の現実暴露『上毛新聞』5月18日
- *知識階級と労働者の利害『労働立国』1-6、6月1日
- 現代国際政治の現実暴露—ジェノアからヘイグへ『我等』4-6、6月1日
- *編輯室から『我等』4-6、6月1日《大山》
- 現代の社会的諸傾向と政治学との交渉【(1)現代政治思想の主潮とその破綻、(2)政治思想に於ける理想主義及び理知主義の崩壊、(3)(4)政治学に於ける社会心理的研究、(5)社会進化を背景としての政治現象の考察】『我等』4-7~11、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日[『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4』収録]
- 支配階級没落の意義『亜細亞公論』1-4、8月1日
- 新しい政治組織とは何ぞ『亜細亞公論』1-5、9月1日
- ジェノア及びヘイグの二会議を背景としての国際政局の一考察『解放』4-9、9月1日[「大戦後に於ける国際政局の新展開(Ⅱ)—ジェノア及びヘイグの二会議を中心として—」と改題『政治の社会的基礎』、『全集1』『著作集4』収録]
- *軍国主義の没落『日華公論』9-9、9月1日
- 外調を中心としての一波瀾/ロンドン会議の決裂[「海内及海外』『我等』4-9、9月1日]
- 行き詰まった憲政の常道『建設者』1-1、10月1日

*知識階級の悲哀『日華公論』9-10、10月1日

長春会議と日本の地位[「海内及海外」]『我等』4-10、10月1日

*議会政治の暗黒面『憲政公論』2-10、10月15日

無意義なる政治運動『亜細亜公論』1-7、11月1日

官僚主義より政党主義迄『自由評論』10-11、11月1日

「人間性」と階級的立場『新潮』37-5、11月1日[『全集4』『著作集6]、青野季吉・中野重治編現代文学論体系4プロレタリア文学』(河出書房、1954年1月15日)収録]

*編輯室から『我等』4-11、11月1日<<大山>>

婦人の個人的解放とその社会的解放『婦人公論』7-13、12月1日[『全集4』『著作集6]、満月会編『婦人問題の諸相』<『満月集』第2>(帝国講学会1925年11月12日)収録]

1923(大正12)年

政治学に於ける社会学的諸要素—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論の一『我等』5-1、1月1日[『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4]収録]

国家について『朝鮮公論』11-2、2月1日

社会群の闘争とその政治的意義—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論二『我等』5-2、2月1日[『政治の社会的基礎』『全集1』『著作集4]収録、野間宏編『青春と革命』(河出書房、1955年)抄録]

*編輯室から『我等』5-2、2月1日<<大山>>

現代の婦人と社会意識『女性』3-3、3月1日

現代政治に於ける民族と階級との関係『中央公論』38-3、3月1日[『民族と階級]、満月会編『第一人者の評論と随筆』<『満月集』第1>(教文社、1924年11月25日)、「現代政治に於ける民族意識と階級関係」と改題『政治の社会的基礎』『全集4』『著作集4]収録]

[[「反動運動に対する所信」]『進め』1-3、4月1日

社会科学に対する興味の抬頭『我等』5-4、4月1日[『民族と階級』『著作集6]収録]

*編輯室から『我等』5-4、4月1日<<大山>>

社会科学の障碍とその排除『我等』5-5、5月1日[『著作集6]収録]

*編輯室から『我等』5-5、5月1日<<大山>>

一早稲田人の立場から—軍事研究団発団式に於ける騒擾事件の批判—『早稲田大学新聞』14、5月16日

社会的に見て[「頻々たる性的事件と性道德の目標」]『中央公論』38-6、6月1日

*脈博通ずる日露両国『東方時論』8-6、6月1日[大山郁夫・杉森孝次郎『露西亞承認論』(東方時論社、1923年6月8日)収録]

*社会科学の基調『憲政公論』3-7、7月1日

大学擁護運動の社会的意義『解放』5-8、8月1日

*[[「研究室臨検事件に就ての感想」]『日本教育』2-8、8月1日

大学の使命に対する青年学生の態度の変遷『我等』5-8、8月1日

*現代社会に於ける科学の地位『信州』5-9、9月1日

学者と実行運動との関係に就いての考察『我等』5-9、9月1日[『著作集6』収録]

学生普選聯盟の為に『早稲田大学新聞』22、12月15日

1924(大正13)年

「若し学園が「大学選挙区」になつたら教授講師の内から誰を択ぶか」『早稲田大学新聞』26、2月15日

*社会科学の必然的過程『自由論攷』2-3、3月1日

現代政局の上に作用する政治意識の種々相及びその将来への展開『中央公論』39-4、4月1日[『現代日本の政治過程』『著作集5』収録]

新しき現実の展開『政治運動』1-1、4月11日

クラッペの『近代国家観』『我等』6-4～8、5月1日、6月1日、8月1日、9月1日[多元的国家観の法理—クラッペの『近代国家観』—と改題『現代日本の政治過程』『全集2』『著作集5』収録]

一年前の「感想」『早稲田大学新聞』36、6月11日

極端なジャーナリズムは御免[鉄箒欄]『東京朝日新聞』7月2日

罷業破りの学生の反省を促す—河田嗣郎氏の議論に対する弁駁—『進め』2-8、8月1日[桑田次郎編『電車ストライキ』(クララテ社、1925年)収録]

政治研究会の進むべき道『政治研究会々報』1、8月15日[『著作集6』収録]

大学生運動の新展開及びその社会的意義—『社会科学の人生価値』前論『改造』6-9、9月1日[『著作集6』収録]

政党の合同騒ぎとその教訓[「時評」]『政治研究』2-2、10月1日

政党合同問題の社会的背景[「学芸」]『東京朝日新聞』10月1～4、7、8日[(-)を『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1987年)収録]

無産階級者抬頭せん—既成政党を驚かす物が現れる—護憲三派の苦しい今後の境涯[「普選実施後の各政党」]『新使命』1-2、11月1日

学生生活と軍事訓練[「時評」]『政治研究』2-3、11月1日

既成政党の矛盾—減帥問題の一面—『政治研究』2-3、11月1日

教育の社会性と国家性—教育界当面の重大問題としての軍事教育計画—『我等』6-10、11月1日[『著作集6』、全国学生軍事教育反対同盟編『軍事教育反対論集』(希望閣、1925年5月20日)収録]

*軍事教育是非 水魚の間柄にある教育と政治問題 前途実に寒心に堪へぬ『山陽新報』11月17、18日

無産階級政党の社会進化上に於ける意義『改造』6-12、12月1日[『全集4』『著作集6』、田中浩編『近代文明批判』<思想の海へ10>(社会評論社、1990年)収録]

我国の教育界が直面する—緊急問題 所謂軍事教育問題を中心として『中央公論』39-13、12月1日[『全集5』『著作集6』『日本平和論体系11』(日本図書センター、1994年)収録]

*無産階級と政党[講演筆記於早稲田講堂]『朝鮮及満州』205、12月1日

普通選挙と無産階級政党『我等』6-11、12月1日[『現代日本の政治過程』『著作集5』収録]

文部当局の非教育的態度 社会科学研究団体への圧迫『早稲田大学新聞』53、54、12月10、17日

1925(大正14)年

[寄稿家筆影]『改造』7-1、1月1日

*新社会倫理の科学的基礎『時流』1-1、1月1日

教育界に於ける階級的専制—軍事教育反対運動及び社会科学研究団体に対する圧迫について—『政治研究』3-1、1月1日

学生の社会意識と当局の階級的専制 社会科学研究団体に対する文部省の圧迫『中央公論』40-1、1月1日[『著作集6』、全国学生軍事教育反対同盟編『軍事教育反対論集』(希望閣、1925年5月20日)収録]

婦人の社会事業に欠けて居るもの『婦人と労働』3-1、1月1日

*社会思想の現実化的傾向[「学芸」]『報知新聞』1月2～6日

*普選と無産党 議会を利用せよ[「稔りゆく普選の美果 其実施後の政治的変転」]『山陽新報』1月3日

*期待される無産階級[「普選後の政界」]『東京日日新聞』1月15、17、18、23日

所謂軍事教練問題に対する政治教育的見地からの批判[「時評」]『改造』7-2、2月1日

社会の進歩と思想問題—時代に無理解なる我が政治家の反省を促す—『新使命』2-2、2月1日

普選に対する態度の種々相『新人』26-2、2月1日

*科学としての政治学の認識の基礎『時流』1-2、2月1日<未見>

新日露条約の意義—無産階級の立場から見て—『政治研究』3-2、2月1日

神経衰弱的法案『我等』7-2、2月1日<大山>

最近に於ける社会思想上の局面転換—その現実化的傾向『我等』7-2、2月1日[『現代日本の政治過程』収録]

新日露条約の意義[「日露修好問題」]『早稲田大学新聞』57、2月4日

呪われたる治安維持法案[「時評」]『改造』7-3、3月1日[『著作集6』、今井清一編『大正デモクラシー』<思想の海へ9>(社会評論社、1990年)収録]

既成政党に対する枢密院の機能『政治研究』3-3、3月1日

社会思想の現実化的傾向『中央公論』40-3、3月1日[『現代日本の政治過程』『著作集5』収録]

治安維持法案の本質『朝鮮公論』13-3、3月1日

政治過程の盲目的進行に対する意識的統制の必要及びその目標『改造』7-4、4月1日[『著作集6』収録]

*無産階級存在価値[演説要旨]『山陽新報』4月17～19日

普選後の政界と無産政党『民衆政治』1、4月18日

*政治教育の問題について(一)前篇 政治と教育との事実上の関係『教育論叢』13-5、5月1日

普選後の政界と無産政党[「普選法通過と既成政党の煩悶」]『政治研究』3-4、5月1日

新政治意識の発生と無産政党の前途『中央公論』40-5、5月1日[『全集4』『著作集6』収録]

*吾等の進むべき道『民衆政治』2、5月18日

- *無産政党の台頭[「普選実施に伴ふ政界将来の分野」]『日本教育』4-6、6月1日
- *社会科学の人生価値[講演速記]『緑丘』1、2、6月5日、7月1日
 - 大学精神と職業意識『早稲田大学新聞』68、6月18日
 - 二重の欣びを味はふ[「暗黒時代を顧みる」]『早稲田大学新聞』69、6月25日
 - 新政治意識の倫理的基礎—序論 無産政党運動に付帯する政治教育上の重要問題『改造』7-7、7月1日[『全集4』『著作集6』収録]
 - 無産政党運動の基調としての新政治意識—『新政治意識の倫理的基礎』続篇—『改造』7-8、8月1日[『著作集6』収録]
 - 無産政党と無産階級意識『新人』26-6、8月1日
 - 滅びゆくものの道—既成諸政党の迷妄—『中央公論』40-9、8月1日[『全集4』収録]
- *社会科学の社会思想への浸透[「社会科学の研究」]『日本教育』4-9、9月1日
 - 政治的旧勢力への最初の一撃—無産政党出現の機運と政治的雰囲気廓清—『中央公論』40-10、9月1日[『全集4』『著作集6』収録]
 - 無産階級倫理の基調『早稲田政治経済学雑誌』2、10月15日[『全集4』『著作集7』収録]
 - 早稲田大学新聞のレーゾン・デートル『早稲田大学新聞』76、10月27日
 - 軍隊の常識—小樽高商野外演習事件の批判—[「小樽高商に於ける軍教問題に対する諸家の感想」]『早稲田大学新聞』76、10月27日
 - 全国的単一無産政党への展望『新人』26-9、11月1日
 - 内外人の性的接触の一特殊相『婦人公論』10-11、11月1日
 - 軍事教育の階級性の発見 小樽高商の野外演習に於ける所謂『想定問題』に関する一批判『中央公論』40-13、12月1日[『全集5』『日本平和論体系11』(日本図書センター、1994年)収録]
 - 結党を祝福す[「無産政党問題」]『早稲田大学新聞』81、12月3日

1926(大正15・昭和元)年

- 無産政党の解放[「農民労働党問題」]『改造』8-1、1月1日
- 農民労働党の解散と支配階級心理『中央公論』41-1、1月1日[『著作集7』収録]
- 無産政党運動の危機『大衆教育』7、1月15日[「農民労働党の解散と無産政党運動の前途」と改題『嵐に立つ』『全集3』収録]
- 単一無産政党主義の将来[「海内及海外」]『我等』8-2、2月1日
- 現実人生への旅立ち—卒業生諸君への送別の言葉—『早稲田大学新聞』87、2月18日
- *「社会問題講座」の出現を予想して『読売新聞』2月27日
 - 無産政党の上に懸る一抹の疑雲『大衆』1-1、3月1日
 - 無産階級運動の理論と実際—雑誌『大衆』の創刊に際して『大衆』1-1、3月1日[『著作集7』収録]
 - 現実主義の陥穽—第二次無産政党組織途上の障碍への警戒—『改造』8-3、3月1日[『著作集7』収録]

- *時代錯誤訓練案[「青年訓練法実施に就いて」]『日本教育』5-4、4月1日
 無産政党が直面する或る難関『大衆』1-2、4月1日
 新労農党のの議会主義肯定とブルジョア議会の自己否定『大衆』1-2、4月1日
 第五一議会の終了と無産政党の発展[「事件及主潮」]『我等』8-4、4月1日
 所謂「現実主義」の唯物弁証法的解釈『大衆』1-3、5月1日[『著作集7』収録]
 無産階級政治運動上に於ける理論闘争の諸条件の形成過程『中央公論』41-5、5月1日[『著作集7』収録]
- *新政治意識倫理性の拡充[「無産政党の将来に就いて」]『日本教育』5-5、5月1日
- *[「職業婦人運動に就いて諸家の回答」]『婦人運動』4-4、5月1日
 我国の現政界と『ドイッチェ・イデオロギー』[「事件及主潮」]『我等』8-5、5月1日
 ブルジョア諸政党側の政治的革新運動の諸相『大衆』1-4、6月1日[「ブルジョア諸政党側の政治的革新運動」と改題『嵐に立つ』収録]
 社会科学への支配階級の攻勢[「事件及主潮」]『我等』8-6、6月1日
 総同盟罷業の影響について—エンゲルスの名言への回想—[「社会及経済」]『我等』8-6、6月1日
- *編輯室から『我等』8-6、6月1日<<大山>>
 社会科学研究圧迫問題の一考察『早稲田大学新聞』98、6月17日
 帝国主義の支配下に於ける社会科学研究の「自由」『改造』8-7、7月1日[『著作集7』収録]
 社会思想圧迫問題と無産政党の任務『大衆』1-5、7月1日
 科学の自己促進性と支配階級の抑圧態度『我等』8-7、7月1日
 頗々たる無産階級雑誌の発売禁止『大衆』1-6、8月1日
 米国憲法論 藤井新一氏著[「書架」]『我等』8-8、8月1日<<大山>>
 長野事件が示唆する社会相[「時評」]『改造』8-10、9月1日
 科学の社会性 社会的進歩の促進力としての科学の本質に関する或る考察『中央公論』41-9、9月1日[『著作集7』収録]
 ブルジョア社会の自己批判への恐怖[「学生検挙事件に関する反響」]『早稲田大学新聞』104、9月23日
 社会科学研究の受難時代[「学生事件批判」]『改造』8-11、10月1日
 社会科学圧迫問題と無産階級の任務『大衆』1-8、10月1日
 農村問題の政治化過程及びその他—木崎村に於ける講演後の感想[「事件及主潮」]『我等』8-10、10月1日
 事件批判の中心点[「学生社会科学研究会事件の批判」]『我等』8-10、10月1日
- *余の書齋生活『東京朝日新聞』10月9日
 社会科学圧迫問題の最近の発展[「時評」]『改造』8-12、11月1日
 社会科学と文壇の自己隔離—正宗白鳥氏の森戸辰男氏評を読んで—『中央公論』41-11、11月1日
 「門戸開放」問題の前途『大衆』1-9、11月1日[「門戸開放問題について」と改題『嵐に立つ』『全集3』収録]

労農党の分裂及びその前途[「事件及主潮」]『我等』8-11、11月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]
無産政党の諸分派の対立関係及びその前途の展望『大衆』1-10、12月1日
無批判的批判の批判—学生検挙事件に対する批判に於ける或る傾向の代表的諸見解の検討—『改造』8-13、
12月1日
労農党の分裂が暗示する無産政党運動の前途 [「労農党の分裂と無産階級政治運動の将来」]『中央公論』
41-12、12月1日[『著作集7』収録]
牛魔王の首(巻頭文)『婦人公論』11-12、12月1日[『全集5』収録]

1927(昭和2)年

無産政党戦線上に於ける諸派の対立関係[「時評」]『改造』9-1、1月1日[「無産階級戦線上に於ける各党の
地位」と改題『嵐に立つ』『全集3』収録]
転換期に於ける政界の新状況『中央公論』42-1、1月1日
マルクスによる「新しき村」評『大衆』2-1、1月1日
日労党の中間派的性質の解剖『大衆』2-1、1月1日
人道主義の暴露[「事件及主潮」]『我等』9-1、1月1日[『嵐に立つ』収録]
*無産政党—運動の現状と其将来への転向[「新興政党領袖の主張(二)」]『福岡日日新聞』1月2日
就任の辞『労働農民新聞』1、1月15日[「委員長就任の辞」と改題『闘争の跡』収録]
解散と無産大衆[「社会時評」]『経済往来』2-2、2月1日
*末期政治の一表現[「無産党はかく見る」]『東京朝日新聞』2月9日
母校を去るに臨みて 親愛なる学生諸君へ『早稲田大学新聞』120、2月17日
吊辞[「学生大会に纏る松田君の死 熱血と純情の生涯」]『早稲田大学新聞』120、2月17日
早稲田の学徒に与ふ『改造』9-3、3月1日[『現代隨想全集 第15巻』『全集3』『著作集7』収録]
無産政党の分野に於ける労農党の地位—特にそれと日労党の立場との関係について『大衆』2-2、3月1
日
*新装せる寡頭的ブルジョア専制政治の一代表型—三党首の妥協を評す—[「政治時評」]『文芸春秋』5-3、3
月1日
自由主義のファシズム化的傾向—吉野作造君及び堀江帰一君の早大事件評を読む『改造』9-5、5月1日[『全
集5』収録]
*私自身の立場から[「広告」]『現代日本文学全集』厳正批判]『東京朝日新聞』5月8日
損失補償法と無産階級『エコノミスト』5-11、6月1日
*当面の金融恐慌と無産階級の立場／田中内閣の『施政方針』[「社会時評」]『文芸春秋』5-6、6月1日
大学擁護に関し若き学徒の任務 記念講演中止の報に接し『早稲田大学新聞』133、6月30日
*全被圧迫民族共同関心の諸問題[「社会時評」]『文芸春秋』5-7、7月1日
*言論出版自由獲得運動と独裁的検閲制度への抗争[「社会時評」]『文芸春秋』5-8、8月1日[「ブルジョア政
府の独裁的検閲制度」と改題『嵐に立つ』収録]

無産階級指導下の言論自由獲得闘争[「言論出版自由獲得の闘争」]『文芸戦線』4-8、8月1日

府県会選挙に於ける労農党の対他諸政党態度—当面の問題『大衆』2-6、8月15日

失業問題の深化と労働者農民の対策[「時評」]『改造』9-9、9月1日[『嵐に立つ』『全集3』、「失業問題の深化と対策」と改題『失業問題叢書 第2巻 統論文集』(失業問題叢書刊行会、1928年6月20日)収録]

実践的自己破壊の芸術[「芥川龍之介の『死』とその芸術」]『中央公論』42-9、9月1日[『芥川龍之介全集 別巻』(岩波書店、1955年)、『芥川龍之介全集 別巻』(筑摩書房、1977年)、『全集5』収録]

*ジュネーヴに於ける国際的悲喜劇[「社会時評」]『文芸春秋』5-9、9月1日[「帝国主義列強の軍縮会議—ジュネーヴに於ける国際的悲喜劇」と改題『嵐に立つ』収録]

五法案獲得運動と労働農民党『労働者』2-9、9月1日

遊説便り(七日京都への車中にて)『労働農民新聞』19、9月11日《大山生》

『労働農民党の旗の下に！』[「ブルジョア政党に対抗して」]『改造』9-10、10月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

支那の無産階級への言葉[「お前(日本)は支那に何を望むか」]『中央公論』42-10、10月1日[『嵐に立つ』収録]

熱火の下を潜つて来て『労働農民新聞』21、10月1日[「熱火の下を潜つて」と改題『闘争の跡』、「戦ひの旅を終へて」と改題『嵐に立つ』『全集3』収録]

労働農民党の勝利に対する社会科学の寄与[「府県会議員選挙の戦跡を顧みて」]『早稲田大学新聞』140、10月13日

*労働農民党の勝利は何を示唆するか？[「無産党の領袖は戦績をどう見るか？」]『週刊朝日』12-17、10月16日

全被圧民族解放戦線の一進展—労働農民党の自由獲得闘争の歴史的意義は如何に府県議選を通じて発揚せられたか？『改造』9-11、11月1日[『嵐に立つ』収録]

*府県会選挙戦の嵐の中から『文芸春秋』5-11、11月1日

『我等』は如何にしてその新進路を打開すべきか？『我等』9-9、11月1日

第二回大会を迎へて『労働農民新聞』28、12月13日[『闘争の跡』『嵐に立つ』『全集3』収録]

1928(昭和3)年

*弾圧政策を排撃してブルジョア政府に拮抗す[「来るべき総選挙に国民は何れの政党を選ばんとするか 敢て聴く各政党領袖の立場」]『我観』51、1月1日

社会科学と無産政党運動—特に労農諸政党合同問題を中心として—『太陽』34-1、1月1日

*来るべき政界の展望と労農党の態度『国民新聞』1月3日

*大衆の要望する政治『山陽新報』1月4~6日

四労農政党の選挙協定協議会成立せん—我党は飽くまでこれを支持す—『労働農民新聞』32、1月14日[労働党書記局長細迫兼光と連名]

*無産政党と社会科学[1927年11月28日政治批判社主催マルクス主義講演会(於青山会館)]『講演』30、1月31日

- 労働農民党の指導精神[「八大政党の指導原理」]『経済往来』3-2、2月1日
- 科学と政治[講演要旨於京都帝国大学学友会主催講演会]『中央公論』43-2、2月1日
- 議会及総選挙に対する労働農民党の態度[「解散を前にして新有権者に与ふ」]『中央公論』43-2、2月1日
- *第五四議会を如何に観る『文芸春秋』6-2、2月1日[座談会：尾崎行雄、近松秋江、伊藤正雄]
- *凡ての人民に自由を与へよ 各党代表講演会において[2月3日演説速記(於第15回朝日民衆講座各政党代表者講演会)]『東京朝日新聞』2月10日
- 決戦は近づけり 全党員諸君に告ぐ『労働農民新聞』36、2月11日[「闘争の跡」収録]
- 友友会の姦計とあくまで戦ふ 大山委員長の手紙[「闘争の巷より」]『労働農民新聞』36、2月11日
- 田中反動内閣を倒壊せよ 大山委員長よりの来電『労働農民新聞』38、2月24日
- *[「新日本建設へー無産各党の言分」]『我観』53、3月1日
- *労働農民党の使命[「主義と政策」]『事業之日本』7-3、3月1日
- *激戦地より帰つて 全党員諸君に『労働農民新聞』39、3月3日
- *弾圧の砲火の下に開かれた拡大中央執行委員会に出席して『労働農民新聞』42、3月23日
- 激流に抗してー労働農民党は香川県第二区に於て如何に選挙戦を戦つたか?『改造』10-4、4月1日[『マルクス主義講座 第5巻』(上野書店内マルクス主義講座刊行会、1928年4月20日)、『嵐に立つ』『全集3』『現代隨想全集 第15巻』(創元社、1954年5月10日)、「香川の選挙戦を如何に闘つたか?」と改題『闘争の跡』収録]
- 弾圧記[「敗戦記」]『中央公論』43-4、4月1日
- *自由人権の新基礎[「各政党代表者普選批判大講演」]『法曹公論』32-4、4月1日
- 労働農民党は香川県において如何に戦つたかー記者と大山氏との対話[「普選転戦記」]『プロレタリア芸術』2-4、4月5日
- *自由人権の新基礎『講演』37、4月20日<<未見>>
- 新闘争段階への発程に際して『労働農民新聞』44、4月19日[「新闘争段階への発程に際して(序にかへて)」と改題『闘争の跡』収録]
- 労働農民党の解散とその再起への展望[「共産党事件と労農党解散問題」]『改造』10-5、5月1日[「闘争の跡」]『嵐に立つ』『全集3』収録]
- 無産階級の視野から見た第五十五議会の正体[「臨時議会の批判・田中内閣の前途」]『改造』10-6、6月1日[「無産階級視野から見た『普選議会』の正体」と改題『嵐に立つ』収録]
- 全国日農両組合合同大会開かる 大山委員長の祝辞『労働農民新聞』49、6月9日
- 全労農戦線統一の前駆 両農民組合の合同大会に臨みて『労働農民新聞』49、6月9日
- *その結果は無産派の奮起[談]『時事新報』6月29日
- *帝国主義戦争には反対[「識者の声に聴かん 对支外交善後策」]『海外』16、7月1日
- 如何にして無産階級政治戦線の当面の難関を克服すべきか『改造』10-7、7月1日
- *反動時代の新新聞紙[「匿名批判 新聞批判」]『文芸春秋』6-7、7月1日<<XYZ>>推定による>
- 旧労働農民党の解散問題を中心として『我等』10-6、7月1日[「嵐に立つ』『全集3』収録]

分裂主義を暴露した無産大衆党の出現を前にして『労働農民新聞』55、7月21日

時事史論の断面『中央公論』43-8、8月1日

無産大衆党のアツピールに就いて『無産者新聞』172、8月20日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

階級戦線を攪乱する無産大衆党の出現『改造』10-9、9月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

全国代表者会議を前にして『労働農民新聞』66、10月20日

*近代都市の魅力とその克服－東京市政刷新の大衆行動を前にして－『文芸春秋』6-11、11月1日[『嵐に立つ』収録]

市政に於ける戦闘的プロレタリアートの任務『法律戦線』7-11、11月1日

[「所謂×××検束問題に就て」]『法律戦線』7-11、11月1日

勝利の希望に満ちて 開会の辞『労働農民新聞』67、11月3日

新労農党結成期への展望－新党準備会全国代表者会議を基点として－『改造』10-12、12月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

敗北から勝利へ－新労農党の輝ける戦旗の樹てられる日を前にして－『戦旗』1-8、12月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

新労農党綱領の基調『中央公論』43-12、12月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

雑誌『農民運動』の再興に際して『農民運動』14、12月10日

*勝利の日まで戦はん[談]『労働農民新聞』号外、12月26日

1929(昭和4)年

新闘争への発程に際して『労働農民新聞』75、1月19日

戦線統一の流れに浮ぶ一抹の泡－日本大衆党の成立およびその本質－[「日本大衆党結成批判」]『中央公論』44-2、2月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

バリケードの両側に－新党準備会の解散と日本大衆党の成立－『戦旗』2-2、2月1日[『嵐に立つ』『全集3』収録]

我々は過ぐる大会から何を学んだか！『マルクス主義』54、2月1日

赤旗につままれた闘士の遺骸－同志山本宣治の死を凝視して－[「山本宣治氏凶死事件」]『改造』11-4、4月1日[『労働者・農民の代議士山宣は議会に於て如何に闘争したか？』(希望閣、1929年、復刊：三一書房、1949年)、『労働者農民の代議士山宣は如何に議会で戦ったか』(赤光社書店、1932年)、『嵐に立つ』収録]

*同志『山宣』の流せる血『文芸春秋』7-4、4月1日[『「文芸春秋」にみる昭和史第1巻』(文芸春秋編・刊、1988年)収録]

左翼戦線は如何に再進出しつつあるか？『改造』11-5、5月1日[「小序」を付して『左翼戦線の再進出』(永田書店、1929年9月20日)と題して刊、『嵐に立つ』『全集3』収録]

マルクスの現代的意義[「国際文化時評」]『国際文化』2-5、5月1日

*戦線の同志に『労働農民新聞』81、5月20日

英雄的階級・階級的英雄[「英雄の研究」]『改造』11-8、8月1日[『大衆は動く』収録]

政変と無産階級運動[「無産党と浜口内閣」]『改造』11-8、8月1日

浜口内閣の出現に際して『法律戦線』8-8、8月1日

*街頭に出でて三年 小著『嵐に立つ』を世に送るに臨み『読売新聞』8月3、4日[(上)を『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版3 自七月～至九月』(新聞資料出版、1989年)収録]

*親愛なる同志諸君!『労働農民新聞』84、8月16日

新労農党樹立の提案まで『中央公論』44-9、9月1日[『大衆は動く』、田部井健次編『左翼戦線の新展開—新労農党の階級的意義—』<新労農党パンフレット No.1>(同人社書店、1929年10月31日)収録]

新労農党樹立の歴史的意義[10月3日新労農党結党促進演説会講演(於大阪中之島中央公会堂)]『社会問題研究』98、10月28日[『大衆は動く』『新時代雄弁(政治篇)十七人集』(新時代雄弁会、1931年)収録]

新労農党樹立の時期に直面して—その労働者農民の同盟としての性質および任務に関する一闡明—『改造』11-11、11月1日[『大衆は動く』収録]

昭和疑獄の具体的特殊性『中央公論』44-11、11月1日

*閉会の辞『労働農民新聞』92、11月11日[『大衆は動く』収録]

*闘争から闘争へ[「送年随筆」]『文芸春秋』7-12、12月1日

1930(昭和5)年

反動時代を如何に戦ひ抜くべきか?—窮まりなく深刻化し行く闘争の展望を前にして大衆に語る—『改造』12-1、1月1日

当面の反動時代に於ける労農党の政策の必然性[「我党の陣容を見よ」]『中央公論』45-1、1月1日[「労農党の政策の必然性」と改題『大衆は動く』収録]

*一九三〇年を闘争によつて迎へよ『労働農民新聞』97、1月1日

金解禁と議会解散問題の交錯『中央公論』45-2、2月1日[『大衆は動く』収録]

総選挙戦の渦中から[「総選挙転戦・観戦記」]『改造』12-3、3月1日[『大衆は動く』収録]

社会民主主義者の夢を一笑に付して[「無産党内閣の出現?」]『中央公論』45-3、3月1日[『大衆は動く』収録]

*東京五区の勝利は大衆の勝利だ!!『労働農民新聞』102、3月1日[『大衆は動く』収録]

*革命家情熱を具えた科学者『産児制限評論』3-3<山本宣治記念号>、3月7日[『性と生殖の人権問題資料集成 第13巻』(不二出版、2003年)収録]

大衆の行進を見る[「選挙を終りて」]2月22日講演大意(於東京日日新聞主催講演会)『廓清』20-3、3月10日

*勝利の日に同志山宣の死を想ふ[「清新なる議会人の宣言」]『サラリーマン』3-3、3月10日

*社会民主主義者の敗北[「戦ひの跡をたづねて」]『経済往来』5-4、4月1日[『大衆は動く』収録]

*金融大資本家のための欺瞞政治[「金解禁後の影響と更生策」]『実業之世界』27-4、4月1日

選挙闘争から議会闘争へ—大衆との固き握手の下に—『中央公論』45-4、4月1日[『大衆は動く』収録]

*新代議士座談会『文芸春秋』8-4、4月1日[座談会：高橋秀臣、片山哲、松谷与二郎、真鍋儀十、久米正雄、佐々木茂索、近藤経一、菊池寛]

- *無産階級の立場から見た特別議会の印象『大阪毎日新聞』5月14～16日
- *見逃されたる財源と借金を全部のばす法案に就て『サラリーマン』3-5、5月15日
ブルジョア議会の最初の印象—同志並に大衆への一つの報告『改造』12-6、6月1日[『大衆は動く』収録]
闘ひの跡を顧みて大衆の審判を待つ—一つの議会報告演説—『中央公論』45-6、6月1日[「大衆の審判を
待つ—ひとつの議会報告演説—」と改題『大衆は動く』収録]
農民の借金支払猶予の法律を定めよ[第58議会質問演説「第五十八議会と農政問題」]『農政研究』9-6、6
月1日
経験の基礎の上に『婦人運動』8-5、6月1日
- *政治的自由獲得闘争に拍車を加へよ『労働農民新聞』112、7月11日
- *浜口内閣の労働組合法案の反動性『経済往来』5-8、8月1日
帝国主義ブルジョアジーの武器としての労働組合法政府案『中央公論』45-8、8月1日
- *労働組合拡大強化への一巨歩 京都地方労働組合総評議会創立大会に於ける祝辞演説の手稿『労働農民新
聞』115、8月11日
敗北主義的解消論を一蹴す[「主張」]『労働農民新聞』118、9月11日
- *なぜ私は「自画像」を描かないか[「自画像を描く」]『読売新聞』9月14、16日
- *党規厳守の階級的意義[「主張」]『労働農民新聞』119、9月21日
敗北主義者の解消論—大阪に於ける労農党解消運動の抬頭およびその行方—『改造』12-10、10月1日
労農党解消問題に関する細迫、河上、大山三氏の持ち廻り座談会『批判』1-6、10月1日[座談会：細迫兼
光、河上肇、長谷川萬次郎、森戸辰男、来間恭、莊原達、嘉治隆一他、S・M(松本重治)]
- *新時代の若き女性へ—闘争の渦中に於ける労働婦人の心の世界—『婦人公論』15-10、10月1日
忘れられない夢の話『文芸春秋』8-11、10月1日
- *「戦闘的解体」論を一蹴す 第四回拡大中央委員会を迎へて『労働農民新聞』123、11月1日
- *レーニン主義を極度に歪曲するもの 解消派の「理論」の正体を暴露する『労働農民新聞』124、11月21
日<124号は11月11日付と11月21日付がある>
河上博士の『理論』—所謂『戦闘的解体論』の正体—『改造』12-12、12月1日
- *金融ブルジョアジー及ブルジョア政党の没落は果して何時来るか『事業之日本』9-12、12月1日<未見>
所謂『戦闘的解体論』の正体暴露[「労農党は何処へ行く？」]『中央公論』45-12、12月1日
- *第二回大会を迎へて『労働農民新聞』125、12月15日<125号は11月21日付と12月25日付がある>

1931(昭和6)年

- イスクラ時代のレーニン『改造』13-1、2、1月1日、2月1日
- *悲壮な決意が左翼闘士に[「我が政局前途の展望」]『山陽新報』1月1日
- *不可避免的な社会現象[「各政党の総裁党首は何を語る 一九三一年を迎へて」]『新潟新聞』1月1日
無産党合同問題に対するわが労農党の態度『批判』2-1、1月1日

- *先づ政治的自由の獲得に[「無産陣営にきく」]『アサヒグラフ』16-3、1月14日
政党内閣の変質[「乱議院批判」]『改造』13-3、3月1日
- *議会は私闘する権利ありや[「各人各論」]『朝鮮公論』19-3、3月1日
ソヴェート・ロシアへ派遣される使節に『中央公論』46-4、4月1日
山宣と大衆『中央公論』46-4、4月1日[『全集5』収録]
第五十九議会の総決算『中央公論』46-4、4月1日
- *刑事補償法の階級性『法律春秋』6-4、4月1日
- *小作人の立場から[第59議会質問演説「第五十九議会と農政問題」]『農政研究』10-5、5月1日
当面の政変を斯く見る[「大民政党の危機」]『中央公論』46-5、5月1日
ファツシヨ化的傾向とその将来[「日本ファツシズムへの展望」]『中央公論』46-6、6月1日[『全集5』収録]
- *わが児への教育『教育学術界』63-4、7月1日
大衆闘争の進路に立つ『三大整理』『中央公論』46-7、7月1日
自己を語る一解放戦線上の一兵卒としての新出発点に立つて『改造』13-9、9月1日
- *戦争危機の現勢をどう見るか[「日支・はたして戦ふか」]『サラリーマン』4-8、9月10日
『借金棒引要求の階級的意義』[「借金半減論是非」]『経済往来』6-10、10月1日
- *社会運動家と演壇『文芸春秋』9-11、11月1日

1932(昭和7)年

- ファツシズムの流れに浮ぶ協力内閣『改造』14-1、1月1日
- *女性よ！茲に新たに！『婦人公論』17-1、1月1日
- *犬養内閣の社会的根拠『神戸又新日報』1月4～6日
- *ファツシヨの嵐に抗して[談、「政戦の首途え立つ關心」]『アサヒグラフ』18-5、1月27日
動揺する政局と不安定なる大衆の進路『中央公論』47-3、3月1日
[「総選挙から何を学ぶべきか？」]『婦人運動』10-3、3月1日
- *『普選』の魅力喪失と『婦選運動』／総選挙と無産党／政治的暗殺の流行[「時事三題」]『婦人之友』26-4、4月1日
- *左極派の恐慌時代がこゝ一二年に来るファツシヨは将来の一大勢力[談]『新世界』4月14日
- *再びみるアメリカの印象『アメリカとニッポン』創刊号[『桑港週報』改刊]、9月<未見>

1933(昭和8)年

- 米国新大統領独裁権の確立へーアメリカ政治通信ー『中央公論』48-8、8月1日[『全集5』収録]

1934(昭和 9)年

アメリカのロシア承認の意義—アメリカ政治通信の二—『中央公論』49-1、1月1日[『全集5』収録]
ブレーン・トラストの悲喜劇—アメリカ政治通信—『中央公論』49-6、6月1日[『全集5』収録]
動く合衆国現政局の解剖—ローズヴェルトの『指導』を中心として—『中央公論』49-10、9月1日
米国現政局を俯瞰して『中央公論』49-11、10月1日

1945(昭和 20)年

祖国に寄す 全面“民主日本”へ—やがて再建に微力尽さん—『毎日新聞』10月6日[『全集5』収録]

1946(昭和 21)年

祖国の知識人に与ふ『毎日新聞』1月7日[『全集5』収録]
再建日本と世界文化『世界文化』1-4、5月1日[『民報』68、69、5月23、24日に転載。『全集5』収録]
大山郁夫氏よりの来信『婦人有権者』2、8月15日[市川房枝編『婦人問題資料集 第2巻』(ドメス出版、1977年)収録]
*微力を大学教育に[談]『朝日新聞』11月2日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十一年版VI 日本国憲法公布』(新聞資料出版、1999年)収録]

1947(昭和 22)年

*最近の感想を語る新日本憲法を前にして『ハワイスター』1~7、3月6、13、20、27日、4月3、10、17日
知友諸君への告別のことば アメリカを去るに臨んで『羅府新報』6月20、21日
*知友諸君への告別のことば 米国を去るに臨んで『ハワイスター』17~19、6月26日、7月3、10日
*米国を去るに臨んで知友への告別の言葉[記事「米国を去るに臨み大山郁夫氏が声明発表」中]『北米新報』2-84、6月26日
[記事「大山先生九月初旬に帰国」中のUP特電談話]『早稲田大学新聞』31、8月21日
日本国民に寄す—マリン・スワローにて—『読売新聞』10月25日[『全集5』収録]
余生を大衆奉仕へ[談話発表]『読売新聞』10月25日[『全集5』収録]
故国を雲際に臨んで—マリン・スワロー号にて『毎日新聞』10月25日[『全集5』収録]
時の変化に驚く[記者との一問一答]『毎日新聞』10月25日
祖国にかえりて『女性改造』2-9、11月1日
反動勢力と闘おう[演説]『早稲田大学新聞』35、11月1日
苦難の中に真理探究—科学的認識と方法が必要—[インタビュー]『早稲田大学新聞』35、11月1日
学問の自由の為に 原子力を民衆の手へ『早稲田大学新聞』36、11月21日[「学問の自由」と題して『民主主義と哲学』(統正社、1948年10月25日)収録]
日本の行く道—創造力と道徳力—民族的存立を救ったポツダム宣言『読売新聞』11月26日[『全集5』収

録]

- *新日本の少年少女へおくる一本の物さし アメリカから帰つて『こども朝日』8-11、12月1日
再び故国の大衆と共に[11月15日歓迎国民大会於日比谷]『中央公論』62-12、12月1日[『全集5』『現代
隨想全集 第15巻』収録]
- *世界平和の指導国家に一学生諸君に與ふー[12月5日講演概要於関西大学]『関西大学学報』226、12月15
日
- *日本の民主革命[12月3日於大阪中央会堂]『時事講演』2-22・23、12月25日

1948(昭和23)年

- 新興世界精神と平和『改造』29-1、1月1日
- *朝鮮の民衆におくる『国際タイムス』1月1日
- *現代と青年『青年』1、1月1日[『青年夏季大学1949年版』<『青年』特別増刊>(青年社1949年7
月10日)収録]
平和への努力『世界評論』3-1、1月1日
国際連合と日本の立場『中央公論』63-1、1月1日
年頭雑感 対日講和問題を中心として『東京民報』747、1月1日[『全集5』収録]
- *民主日本の完成へ・同胞に訴ふ『西日本新聞』1月1日[対談：長谷川如是閑。「日本民主化への道」と題し
て『北海道新聞』1月1日、「大衆に訴ふる」と題して『中部日本新聞』1月6、7日に掲載]
武力を超ゆる力『放送』8-1、1月1日
国際日本の門出に際して『民論』3-1、1月10日
- *祖国に帰りにて[1月9日於大阪中央会堂]『講演通信』25、1月25日
- *我国必然の進路『先見経済』12、2月1日
社会的新秩序の創造と国民の道徳的意識[「時評言」]『中央公論』63-2、2月1日
アメリカより帰りにて想ふ『ナショナル・シヨップ』2-2、2月1日
宣言『日本週報』72・73、2月1日[鼎談：カール・バックマイヤー、フランク・ホーレー]
労働者とともに[文責在記者]『労働評論』3-2、2月1日
- *映画の現実と将来[「特別寄稿」]『キネマ旬報』29、3月1日
二つの世界と日本の進むべき道『青年戦線』1、3月1日
ガンディ翁の死に寄せて[「時評言」]『中央公論』63-3、3月1日[『全集5』『現代隨想全集 第15巻』収
録]
- *再建日本の国際的進路 再び山梨の諸君と逢ふ機会を得て『文化山梨』36、3月1日
- *再建日本を語る『靄』2-4、4月1日
今次政変からの教訓[「時評言」]『中央公論』53-4、4月1日
- *平和へのたたかい『民衆の友』3-3、4月1日[野坂参三との誌上対談]

- *デモクラシーの血液[「友を語る」]『週刊朝日』52-14、4月4日[週刊朝日編『陽春読物集』(朝日新聞社、1948年)収録]
- *個人の力となれ[「こんな映画が出来たら!」]『映画物語』3-4、4月10日
- *展開せよ! 一大平和運動『講演時報』553、4月10日
 新生日本の進路『講演』660、4月15日
 アメリカの労働情勢—最近の動きについて答える—『ぜんてい』3、4月25日
 日本国民と平和運動—われらの将来に輝く栄光を—『故郷』2-5、5月1日
- *自由日本への改革[1931年2月13日衆議院議事速記録抄録]『新日本』3-5、5月1日
 世界の危局と日本の立場[「時評言」]『中央公論』63-5、5月1日
 大山郁夫氏をかこんで 新聞記者座談会『評論』21、5月1日[座談会: 松岡英夫(毎日)、金久保通雄(読売)、久我豊雄(共同)、加藤彪二(東京)、佐野増彦(報知)]
- *世界はどうか 日本を語る『民論』3-2、5月1日[座談会: 佐藤尚武、森戸辰男、新居格]
 山本宣治[「思い出の人を語る」]『労働評論』3-5、5月1日
 主権在民と戦争放棄[「時評言」]『中央公論』63-6、6月1日
 戦争か・平和か[文責在編集者]『信濃路』3-21、6月15日
- *日本の将来と若き学徒の任務『稲友』1-4、7月5日
- *冷たい戦争と日本の立場『光』4-7・8、8月1日
 戦争責任と天皇の退位[「時評言」]『中央公論』63-8、8月1日[吉本隆明編『戦後日本思想大系 5 国家の思想』(筑摩書房、1969年)、『月刊世界政経』3-4、1974年4月収録]
 若者よふるい立て『民衆の友』3-7・8、8月1日[野坂参三との対談]
 ボツダム宣言の再確認『人民戦線』4-25、8月15日[『現代随想全集 第15巻』収録]
 反動の波いよいよ高し 全民衆の力によって対抗せよ『東京民報』984、8月29日
 学生諸君に與う『蛍雪時代』18-6、9月1日
 国家公務員法改正と世論[「時評言」]『中央公論』63-9、9月1日
 学内政治運動は学生が決定せよ[談話]『早稲田大学新聞』48、9月25日
 全民衆の問題としての民主主義擁護の必要性『中央公論』63-10、10月1日
- *日本の生きる道『日本経済』2-4、10月1日
 ボツダム政令と公務員法問題『労働評論』3-10、10月1日
- *ウォーレスを語る『世界の動き』65、11月1日
 対日講和促進の世界的気運[「時評言」]『中央公論』63-11、11月1日
- *人間性を把握せよ『東北興信』31、11月1日
 全民衆の敵『日本週報』100、11月1日
 国家公務員法改正雑感[談話筆記]『法律時報』20-11、11月1日[『探書マンズリー』3-2、1949年2月15日に転載]

国民的責任を感じよ[「東京裁判の判決を聞いて」]『夕刊新大阪』1006、11月13日

東京民報をおしむ『東京民報』1076、11月30日

*[「文化人とのポケット問答 明るい鉄道にする運動」]『せんでつ』3-11・12、12月1日

保守政権と非日活動[「時評言」]『中央公論』63-12、12月1日

国際人権宣言と日本の平和的将来『人文科学研究』5、12月25日

1949(昭和24)年

日本民主革命の再検討『中央公論』64-1、1月1日[座談会：長谷川如是閑、野坂参三]

*キングのいる国にデモクラシーはない[「天皇退位の是非」]『青鉛筆』1-2、1月1日

*学生に与う 自由を諸君の手に[文責在記者]『早稲田大学新聞』57、1月1日

*総選挙迫る!一票も棄権するな!アナタの生活はあなたの一票が守る 正しく選べ我らの代表[談]『労組』2-1、1月17日

農村に寄する言葉[文責在記者]『村の光』5、1月30日

世界人権宣言の誕生[「時評言」]『中央公論』64-2、2月1日

安部磯雄の思い出[談]『夕刊新大阪』1096、2月12日

民主人民戦線への展望と文化人群の当面の任務『世界文化』4-3、3月1日

民主人民戦線への動向[「時評言」]『中央公論』64-3、3月1日

世界人権宣言『日本評論』24-3、3月1日[『現代隨想全集 第15巻』収録]

総選挙をかえりみて『評論』30、3月1日

総選挙とその後の民主戦線『労働評論』4-3、3月1日

平和のために[大会速記録抄録]『われらの仲間』7、4月1日

ロイヤル長官の置土産[「時評言」]『中央公論』64-4、4月1日

*[ハガキ回答]『鋼輪』4月4日

*進歩的統一戦線の結成のために『月刊東奥』11-4、4月5日

*世界人権宣言について『人類同盟』9、5月1日

北大西洋同盟と日本の平和的将来[「時評言」]『中央公論』64-5、5月1日

自由と平和への道[講演「私学の恩人大隈老侯」大要]『早稲田大学新聞』64、5月11日

*[「諸家は今年は何をする考えか 時事年鑑にあらわれた諸家の個人計画の展望」]『佐世保文化』2、6月1日

社会党の再建プログラム[「時評言」]『中央公論』64-6、6月1日

国際政治の傍観者[「時評言」]『中央公論』64-7、7月1日

「法治国家主義」の茶番劇化[「時評言」]『中央公論』64-9、9月1日

永世中立と安全保障『早稲田政治経済学雑誌』100、9月3日

私の見た地方政治[「時評言」]『中央公論』64-10、10月1日

階級的良心について『世界評論』4-11、11月1日

*「われらの新聞」を守ろう『労働戦線』221、11月3日

対日講和とポツダム宣言 世界にしめせ平和の叫び[文責在記者]『三田新聞』627、11月30日

占領下の言論の自由[「時評言」]『中央公論』64-12、12月1日

1950(昭和 25)年

何故に全面講和を支持するか『解放新聞』21、1月10日

真理のための闘いへー澆刺たる学生運動の展開を期待するー[「世紀の半ばに立つて」]『早稲田大学新聞』80、1月11日

世界史への試練ー講和問題と国論統一のあり方ー『評論』39、1月1日

吉田内閣の犠牲者『評論』40、2月1日[座談会：土屋清、布施辰治、小松清、赤岩栄、関嘉彦]

大学擁護運動の新段階『学生評論』4、2月20日

*二つの世界をつなぐ人[「講和条約締結後あなたは誰を駐米大使に選びますか」]『丸』3-3、3月1日

戦争よさらば『新週報』1-3、3月15日[座談会：岩淵辰男、志賀義雄]

対日講和に私はかく信ず『新生』1、3月[未見]

日本女性に訴うー平和問題と女性の立場ー[巻頭言]『新女苑』14-4、4月1日

*アメリカの良さ『丸』3-4、4月1日

*大衆の創造性と民主主義教育『新日本教育』1-1、4月

自衛権について『世界評論』5-5、5月1日

参議院選挙と民主民族戦線『中央公論』65-5、5月1日

“夜明け前”の運動ー筋金の入っていた早稲田ー『早稲田大学新聞』85、5月1日

民族独立と世界平和のために[「日本共産党と私の立場」]『日本週報』150、5月15日

*ポツダム宣言と永世中立[5月20日「学問の自由のため」の講演会(於東京朝日新聞社講堂)、文責在記者]『講演通信』53、6月25日

嵐はきたえるー大山郁夫氏の挨拶ー『新文化』187、7月3日<<未見>>

参議院選挙と市村今朝蔵君『早稲田学報』603、7月20日

わたしの訴え[7月19日質問演説於第8回臨時国会参議院本会議]『新しい世界』38、9月1日

1951(昭和 26)年

世界平和と日本民族の使命『改造』32-1、1月1日

ワセダマンとしての半世紀ー早稲田の教壇を去るに際し学生諸君に贈る言葉ー『早稲田大学新聞』99、4月21日

わが闘病記[「白雲悠々去り又来る」]『日本週報』180、6月15日

*平和の旗の下に『早稲田大学新聞』復刊113、11月11日

*世界平和の声に和して『学園新聞』625・626、11月12日

大山郁夫さん決意を語る[記事「一九五一年度国際スターリン賞郭沫若、ネンニ、大山郁夫氏ら六名に決定」中の談]『民主新聞』205、12月26日

1952(昭和27)年

[記事「国際スターリン賞委員会への大山郁夫氏の謝電」中の謝電]『民主新聞』206、1月1日

日本の進路を憂う－当面の国際政治的新環境下の一課題として－『改造』33-1、1月1日[『現代隨想全集 第15巻』収録]

*1952年を平和の年に 世界非武装への第一歩日本の軍備放棄の使命『早稲田大学新聞』復刊117、1月11日

*“モスクワへ行く”[談]『朝日新聞』1月28日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十七年版 I 日米行政協定調印』(新聞資料出版、2002年)収録]

スターリン首相に寄す『改造』33-4、3月1日[『現代隨想全集 第15巻』収録]

社会主義政党的の統一に寄せて[「社会主義政党的の統一について」]『社会主義』10、3月1日

世界平和への道を求めて[「スターリン賞は真の平和賞か」]『日本週報』200、3月1日

*平和希求の悲願『先見経済』264、3月18日[「点滴十年」『先見経済』600、1956年11月10日に抄録]

*「独立」日本の運命－僕は悲観していない－『東洋経済新報 別冊』8、5月5日

[記事「全員の無罪を主張 早大事件公判」中の第一次早稲田事件に関する東京地裁証言要旨]『早稲田大学新聞』126、6月11日

不戦アジアの誓い『潮』1-1、6月15日

私はこう見る[「地下への公開状」]『中央公論』67-8、7月1日

[記事「盧溝橋事変十五周年をむかえ」中の松本治一郎・宇田耕一・神近市子・桜沢如一・畑中政春との連名による毛沢東宛書簡]『民主新聞』364、7月12日

[ジュリオ・キューリー宛細菌兵器使用に関する打電メッセージ]『平和』2、8月1日[世界平和評議会『bulletin ビュレチン』22<未見>に掲載]

*八月十五日の新意義『せかい平和』40、8月15日

新聞記者時代 【(上)寺内内閣の弾圧時代－危険顧みず渦中から論説取材－、(中)シベリア出兵論説で発禁処分－支那浪人に裸にされた村山龍平氏－、(下)著しい過渡期の表情－一番影響を受けた櫛田民蔵氏－】『新聞協会報』857～859、8月18、21、25日

友人としての山本君[「山本実彦を悼む」]『改造』33-12、9月1日

中華人民共和国三周年を祝う『新時代』21、10月

*大山郁夫氏に聞く アジア侵略の再軍備 平和勢力の結集に期待『三田新聞』695、10月20日

創立七十年を祝う『早稲田大学新聞』133、10月28日

日本を再び滅亡に導くもの『日本週報』229、11月25日

諸国民の平和大会への呼びかけ[平野義太郎と連名]『平和』7、12月1日

1953(昭和28)年

スターリン首相の死をいたんで『民主新聞』430、3月12日

スターリン首相の逝去をいたむ『新時代』25、3・4月

平和戦線の拡大強化のために―二大選挙にのぞんで―『前衛』79、4月1日

わたしは叫ぶ[「総選挙を通じて平和の勝利へ!」]『平和』13、5月1日

*夜明かして原稿書き モスクワにて『早稲田大学新聞』復刊155、9月23日

モロトフ外相との会見『新しい世界』73、11月1日

中日関係についての周恩来総理と大山郁夫教授との会談[9月28日会見要旨]『人民中国』6、11月1日[「周恩来総理と大山郁夫教授との会談」と題して『日中友好を論ず』<新中国シリーズ第3集>(日本中国友好協会、1953年12月15日)収録]

*[記事「大山さんごくろうさん」中の帰国挨拶要旨]『アカハタ』1252、12月12日

1954(昭和29)年

平和へ前進の年 朝鮮、ヴェトナムの人々は兄弟 大山さんの年頭のことは[談話]『アカハタ』1258(復刊179)、1月1日 OK

ソ連へ行って若返った『日東新聞』219、1月1日

*全世界の青年と団結せよ『三田新聞』722、1月10日

モロトフとの“50分”『日本週報』272、1月15日

日本は平和の基地たれーモロトフ・金日成・周恩来会見から―『改造』25-2、2月1日

松川の判決について全国民に訴える『前衛』89、2月1日

平和の使を果して『中央公論』69-2、2月1日[『現代隨想全集 第15巻』収録]

国民使節の旅から『婦人公論』39-2、2月1日[大山柳子との対談]

*ソ連は天国か?『文芸春秋』32-2、2月1日[中野好夫との対談]

*よみがえる感動―業績と人柄を知る案内書―片山潜著自伝『図書新聞』239、3月27日

*ソ連・中国との国交『先見経済』419、4月30日

日本の平和とアジア『改造』35-10、10月1日

早稲田の力は世界に貢献―早稲田祭を心より祝う[文責在記者]『早稲田大学新聞』195・196、11月24日

1955(昭和30)年

*平和の意思あるところ平和の組織を『電通たたかい』30、1月1日

*年頭のことば『若き戦士』161、1月1日

新しい平和の問題とヒューマニズムをめぐって『早稲田大学新聞』200、1月19日[対談：広津和郎、司会：松島栄一]

八・六大会に寄せて『アカハタ』1726、8月6日

アメリカ国民よ、共に進もう[ヘルシンキ平和大会記念特集]『オリゾン』6、9月1日

3. 帝国議会議録・国会議会議録

3.1 帝国議会議録

1930(昭和5)年4月27日、浜口首相施政方針演説に対する質問演説『官報号外 昭和五年四月二十八日第五十八回帝国議会議院議事速記録 第四号』[労農党本部調査編『労働者・農民の代議士 大山郁夫は斯く叫ぶー第五十八議院に於ける質問演説ー』(春秋社、1930年5月8日)、近藤栄蔵編『プロレタリア演説集』(平凡社、1930年6月)、『全集2』収録]

1931(昭和6)年2月10日、政府提出「刑事補償法案」に対する質問演説『第五十九回帝国議会議院刑事補償法案委員会議録(速記)第三回 昭和六年二月十日』

1931(昭和6)年2月12日、治安警察法中改正法律案に対する質問演説『官報号外 昭和六年二月十三日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第十二号』

1931(昭和6)年2月14日、政府提出「小作法案」に対する質問演説『官報号外 昭和六年二月十五日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第十三号』[「反動的な小作法案を粉砕せよ！」と題して新時代雄弁会編『新時代雄弁(農村篇)十六人集』(先進社、1931年8月)、「反動的な小作法案を粉砕せよ！ー昭和六年二月一四日、第五九議院に於てー」と題して帝国政治雄弁協会編『大衆政治の言論戦』(宗孝社、1932年2月)、『反動的な小作法案を粉砕せよ！第五九議院に於ける大山郁夫氏の演説』(労農党本部事業部、1931年3月11日)収録]

1931(昭和6)年2月21日、政府提出「刑事補償法案」に対する反対演説『官報号外 昭和六年二月二十二日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第十七号』

1931(昭和6)年3月14日、議院内速記者待遇問題に関する発言『官報号外 昭和六年三月十五日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第二十七号』

1931(昭和6)年3月17日、北洋漁業権益確保建議案について議事進行に関する発言『官報号外 昭和六年三月十八日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第二十八号』

1931(昭和6)年3月20日、浜口内閣不信任案について議事進行に関する発言『官報号外 昭和六年三月二十一日 第五十九回帝国議会議院議事速記録 第三十一号』

3.2 国会議会議録

1950年7月19日、国務大臣の演説に対する質問演説『官報号外 昭和二十五年七月十九日 第八回国会参議院議録第七号』

1951年10月16日、国務大臣の演説に対する質問演説『官報号外 昭和二十六年十月十六日 第十二回国会参議院議録第五号』

1952年4月28日、日米安全保障条約第三條に基く行政協定の実施に伴う特例に関する法律案に対する演説『官報号外 昭和二十七年四月二十八日第十三回国会参議院議録第三十四号』

1952年5月27、29、30日、国際連合への加盟について承認を求めるの件について質疑『第十三回国会参議院外務委員会議録 第三十三号 昭和二十七年五月二十七日』、『第十三回国会参議院外務委員会議録 第三十四号 昭和二十七年五月二十九日』、『第十三回国会参議院外務委員会議録 第三十五号 昭和二十七年五月三十日』

- 1952年6月3日、国際連合への加盟について承認を求めるの件について反対演説『第十三回国会参議院外務委員会会議録 第三十六号 昭和二十七年六月三日』
- 1952年6月4日、国際連合への加盟について承認を求めるの件について反対演説『官報号外 昭和二十七年六月四日 第十三回国会参議院会議録第四十七号』
- 1952年11月27日、吉田首相の施政方針演説並びに岡崎外相の外交演説について質問『官報号外 昭和二十七年十一月二十七日 第十五回国会参議院会議録第六号』
- 1952年12月11日、鹿地亘事件に関連して発言『第十五回国会参議院外務委員会会議録 第六号 昭和二十七年十二月十一日』
- 1952年12月22日、参考人琉球立法院議員平良辰雄への質問『第十五回国会参議院外務委員会会議録 第十号 昭和二十七年十二月二十二日』
- 1953年2月26日、電気事業及び石炭鉱業における争議行為の方法の規制に関する法律案について質問『官報号外 昭和二十八年二月二十六日 第十五回国会参議院会議録第二十七号』
- 1954年1月29日、政府の施政演説について質問『官報号外 昭和二十九年一月二十九日 第十九回国会参議院会議録第六号』
- 1954年4月5日、原子力国際管理並びに原子兵器禁止に関する決議案について賛成演説『官報号外 昭和二十九年四月五日 第十九回国会参議院会議録第二十九号』
- 1954年5月27日、けい肺法制定促進に関する請願について質問『第十九回国会参議院労働委員会会議録 第二十六号 昭和二十九年五月二十七日』
- 1954年12月18、19日、外交方針について重光外相に対する質問『第二十一回国会参議院外務委員会会議録 第三号 昭和二十九年十二月十八日』、『第二十一回国会参議院外務委員会会議録 第四号 昭和二十九年十二月十九日』

4. 『全集』・『著作集』収録・初出一覧

4-1 『大山郁夫全集』

『大山郁夫全集 第1巻』中央公論社、1947年2月15日

政治の社会的基礎	同人社書店、1923年2月28日
序論 現代の社会的諸傾向と政治学との交渉 1 現代政治思想の主流とその破綻 2 政治思想に於ける理想主義及び理知主義の陥穽 3 政治学に於ける社会心理的研究の必要 4 社会心理的現象と科学的社会思想 5 社会進化を背景としての政治現象の考察	『我等』4-7~11、1922年7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日
6 政治学に於ける社会学的諸要素	政治学に於ける社会学的諸要素—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論一『我等』5-1、1923年1月1日
7 社会群の闘争とその政治的意義	社会群の闘争とその政治的意義—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論二『我等』5-2、1923年2月1日
第1篇 社会生活と政治現象	
1 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(I)	現代文化生活に於ける天才主義『中央公論』37-1、1922年1月1日
2 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(II)	天才主義と現代の政治及び社会生活『中央公論』37-4、1922年4月1日
3 知識崇拜の迷信と階級意識	智識階級崇拜の迷信と階級意識『大観』5-4、1922年4月1日
4 現代政治に於ける民族意識と階級関係	現代政治に於ける民族と階級との関係『中央公論』38-3、1923年3月1日
第2篇 国際政局の進展	
1 主権の学説と国際主義の新展開	『我等』4-2、1922年2月1日
2 強国の弱点	『我等』4-3、1922年3月1日
3 大戦後に於ける国際政局の新展開(I) —ワシントン会議を中心として—	大戦後に於ける国際政局の新展開『解放』4-3、1922年3月1日
4 大戦後に於ける国際政局の新展開(II) —ジェノア及びヘーグの二会議を中心として—	ジェノア及びヘーグの二会議を背景としての国際政局の一考察『解放』4-9、1922年9月1日
第3篇 現代日本の政治生活	
1 明治時代に於ける政治外交の基調、	『解放』3-10、1922年10月1日
2 現代日本に於ける政治的実践の移動	社会的経済力の表現としての現実政治—現政局の総合的批判—『中央公論』36-7、1921年7月1日

『大山郁夫全集 第2巻』中央公論社、1947年10月15日

現代日本の政治過程 及びその将来への展開	改造社、1925年5月18日
最近に於ける社会思想及び政治事実の進展—序文に代へて—	
社会思想の現実化傾向	『中央公論』40-3、1925年3月1日
普通選挙と無産階級政党	『我等』6-11、1924年12月1日
本論 現代日本の政治過程	現代政局の上に作用する政治意識の種々相及びその将来への展開『中央公論』39-4、1924年4月1日
捕論 多元的国家観の法理—クラブの『近代国家観』—	クラブの『近代国家観』『我等』6-4~8、1924年5月1日、6月1日、8月1日、9月1日
クラブ国家論[1 国家、2 概括的批判]	1925年

大山郁夫は斯く叫ぶ	労農党本部調査編『労働者・農民の代議士 大山郁夫は斯く叫ぶ—第五十八議会に於ける質問演説—』(春秋社、1930年5月8日)
序	
第五十八議会に於ける質問演説	1930年4月21日官報号外
同志山宣の死と我々の決意	1930年3月5日山本宣治追悼演説会於東京・本所公会堂
民族闘争と階級意識—現代政治に於ける民族と階級との関係	『民族闘争と階級意識』科学思想普及會、1924年6月15日
政治学改造の原理	『最近時代思潮論集』国際聯盟協會、1922年11月1日
無産政党論	『社会問題講座第 13 卷』新潮社、1927年6月8日

『大山郁夫全集 第3巻』中央公論社、1948年2月20日

1 嵐に立つ	『嵐に立つ』(鐵塔書院、1929年)から中編の2篇(大衆闘争の進展、全被圧迫民衆解放戦線の一進展)、下篇の1篇(赤旗に包まれた戦士の遺骸)、別編(全7篇)を除き収録
著者の覚え書	
上編 労働農民党前史時代—労働農民党の樹立から労働農民党の分裂まで—	
農民労働党の解散と無産政党運動の前途	無産政党運動の危機『大衆教育』7、1926年1月15日
単一無産政党主義の危機	
1 単一無産政党主義の意義とその危機	
労働農民党の誕生とその政治的環境	
門戸開放問題について	『門戸開放』問題の前途『大衆』1-9、1926年11月1日
労働党の分裂及びその前途	『我等』8-11、1926年11月1日
無産階級戦線上に於ける各党の地位	無産政党戦線上に於ける諸派の対立関係『改造』9-1、1927年1月1日
中編 労働農民党は如何に戦ったか?—第一回党大会から解散まで—	
労働農民党の闘争方針	
失業問題の深化と労働農民党の対策	『改造』9-9、1927年9月1日
労働農民党の旗の下に	『労働農民党の旗の下に!』『改造』9-10、1927年10月1日
戦ひの旅を終へて	熱火の下を潜つて来て『労働農民新聞』21、1927年10月1日
第二回大会を迎へて	『労働農民新聞』28、1927年12月13日
労働農民党と婦人運動	
政治的自由獲得闘争への進出	政治的自由獲得への進出『各政党代表者大演説集』大阪毎日新聞社、1928年2月11日
激流に抗して	『改造』10-4、1928年4月1日
労働農民党の解散とその再起への展望	『改造』10-5、1928年5月1日
旧労働農民党の解散問題を中心として	『我等』10-6、1928年7月1日
下編 敗北から勝利への行進	
階級戦線を撓乱する無産大衆党の出現	『改造』10-9、1928年9月1日
無産大衆党のアピールに就いて	『無産者新聞』172、1928年8月20日
新労働党結成期への展望	『改造』10-12、1928年12月1日
新労働党綱領の基調	『中央公論』43-12、1928年12月1日
敗北から勝利へ	『戦旗』1-8、1928年12月1日
結党・解散・更生	
戦線統一の流れに浮ぶ一抹の泡—日本大衆党の成立およびその本質—	『中央公論』44-2、1929年2月1日
バリケードの両側に	『戦旗』2-2、1929年2月1日
左翼戦線は如何に再進出しつつあるか	『改造』11-5、1929年5月1日
2 嵐への途	
1 知識階級と労働者	『我等』1-11、1919年9月1日

2 労働問題の文化的意義	『我等』 1-12、1919年10月1日
3 文化要素としての労働者	『我等』 1-13、1919年11月1日
4 労働者と教育－官僚式教育の破産－	『我等』 1-14、1919年12月1日
5 労働問題と教育問題との交錯－文化価値創造の上に於ける労働者の貢献－	『我等』 2-1、1920年1月1日
6.知識階級の自覚といふこと	『雄弁』 11-2、1920年2月1日
7 研究の自由と研究発表の自由－前東京帝大助教授森戸辰男氏クロボトキン思想研究筆禍事件批判－	『新小説』 25-2、1920年2月1日
8 社会科学に於ける研究の自由	『我等』 2-3、1921年3月1日
9 早稲田の学徒に与ふ	『改造』 9-3、1927年3月1日

『大山郁夫全集 第4巻』中央公論社、1948年5月20日

1 政治哲学論集	
無産階級倫理の基調	『早稲田政治経済学雑誌』 2、1925年10月15日
デモクラシーの政治哲学的意義	『大学評論』 1-7、10、11、1917年7月1日、10月1日、11月1日
政治を支配する精神力	『中央公論』 31-4、1916年4月1日
政治的機会均等主義	『新小説』 21-3、1916年3月1日
政治と生活	『新小説』 21-9、1916年9月1日
社会改造の根本精神	『我等』 1-10、1919年8月1日
社会的経済力の表現としての現実政治	『中央公論』 36-7、1921年7月1日
政治否定の傾向	『大観』 4-2、1921年2月1日
無産階級政党の社会進化上における意義	『改造』 6-12、1924年12月1日
新政治意識の発生と無産政党の前途	『中央公論』 40-5、1925年5月1日
新政治意識の倫理的基礎－序論 無産政党運動に付帯する政治教育上の重要問題	『改造』 7-7、1925年7月1日
滅びゆくものの道－既成諸政党の迷妄－	『中央公論』 40-9、1925年8月1日
政治的旧勢力への最初の一撃－無産政党出現の機運と政治的雰囲気の廓清－	『中央公論』 40-10、1925年9月1日
2 文化批評論集	
軍国的文化国家主義－独逸国民生活の一面－	『新小説』 21-4、1916年4月1日
民衆文化の帰趨と教育	『我等』 2-5、1920年5月1日
教育上の迷信及び迷信打破	『我等』 2-10、1920年10月1日
近代思想と概念崇拜	『我等』 4-4、1922年4月1日
「人間性」と階級的立場	『新潮』 37-5、1922年11月1日
婦人の商品性とその人間性	『婦人公論』 5-12、1920年12月1日
婦人の個人的解放とその社会的解放	『婦人公論』 7-13、1922年12月1日

『大山郁夫全集 第5巻』中央公論社、1949年6月10日

1.軍国主義批判	
マキアヴェリズムとドイツの軍国主義	マキアヴェリズムと独逸の軍国主義『国家学会雑誌』 29-9、10、1915年9月、10月1日
英独大海戦の世界歴史上の意義	『新小説』 21-7、1916年7月1日
我国の教育界が直面する一緊急問題 所謂軍事教育問題を中心として	『中央公論』 39-13、1924年12月1日
軍事教育の階級性の発現	『中央公論』 40-13、1925年12月1日
国際政治上の新紀元と日本の政治的将来	『中央公論』 34-1、1919年1月1日
2.ロシア革命批判	
露国政局の前途	『新小説』 21-8、1916年8月1日
世界の民主化的傾向とロシア最近の革命	世界の民主化的傾向と露西亜最近の革命『中央公論』 32-4、1917年4月1日

露国過激派の実勢力に対する過小視と其政治思想の価値に対する過大視	『中央公論』33-5、1918年5月1日
3. 都市生活	
都市意識	『早稲田講演』5-4、1915年4月20日
都市生活の家族的情緒	『新小説』21-5、1916年5月1日
都市自治と協同的精神	『新小説』21-6、1916年6月1日
4. 人物月旦	
多数政治の指導者としてのウイルソン	『新小説』21-12、1916年12月1日
責任感の稀薄なる我国政治家の言論—寺内首相失言問題に関する考察—	『中央公論』33-7、1918年7月1日
過渡期の代表的政治家としての原敬氏	『大観』4-12、1921年12月1日
芥川龍之介氏の「死」とその芸術	実践的自己破壊の芸術[芥川龍之介の『死』とその芸術]『中央公論』42-9、1927年9月1日
山宣と大衆	『中央公論』46-4、1931年4月1日
ガンディ翁の死に寄せて	『中央公論』63-3、1948年3月1日
5. ファシズム批判	
日本ファシズムへの展望	ファツシヨ化的傾向とその将来[「日本ファツシズムへの展望」]『中央公論』46-6、1931年6月1日
自由主義のファシズム化的傾向	『改造』9-5、1927年5月1日
6. 故国に寄せる	
米国新大統領独裁権の徹底[?確立]—アメリカ政治通信—	『中央公論』48-8、1933年8月1日
アメリカのロシア承認の意義—アメリカ政治通信の二—	『中央公論』49-1、1934年1月1日
ブレーン・トラストの悲喜劇—アメリカ政治通信—	『中央公論』49-6、1934年6月1日
遙かに故国を望んで	
やがて再建に微力尽くさん	『毎日新聞』1945年10月7日<3日発UP特電>
故国の知識人に与ふ	『毎日新聞』1946年1月7日
再建日本と世界文化	『民報』1946年5月24日
故国を雲際に望んで	故国を雲際に臨んで—マリン・スワロー号にて『毎日新聞』1947年10月25日
私は今再び故国に在る	『読売新聞』1947年10月25日
日本の行く道	『読売新聞』1947年11月26日
年頭雑感	『民報』1948年1月1日
再び故国の大衆と共に	『中央公論』62-12、1947年12月1日
付・随想	
牛魔王の首	『婦人公論』11-12、1926年12月1日
お伽噺の日本・夢の日本	『大観』4-8、1921年8月1日
教育評議会の使命	『大観』4-8、1921年8月1日
ある夏期大学の追憶	『新小説』25-8、1920年8月1日

4-2 『大山郁夫著作集』

『大山郁夫著作集 第1巻』岩波書店、1987年11月30日

我が政治道徳観	『六合雑誌』410、1915年3月1日
都市意識	『早稲田講演』5-4、1915年4月1日
外交と道徳	『早稲田講演』5-9、1915年9月1日
マキアヴェリズムと独逸の軍国主義	『国家学会雑誌』29-9、10、1915年9月、10月1日
憲政治下の政党と国民	『新日本』5-10、1915年10月1日
支那国体変更問題と五国の勧告	『早稲田講演』6-1、1916年1月1日
街頭の群集—政治的勢力としての民衆運動を論ず—	『新小説』21-2、1916年2月1日
政治的機会均等主義	『新小説』21-3、1916年3月1日
大亜細亜主義の運命如何	『新日本』3-1、1916年3月1日
軍国的文化国家主義—独逸国民生活の一面—	『新小説』21-4、1916年4月1日
政治を支配する精神力	『中央公論』31-4、1916年4月1日
都市生活の家族的情緒	『新小説』21-5、1916年5月1日
都市自治と協同的精神	『新小説』21-6、1916年6月1日
国民意識と国家政策	『中央公論』31-9、1916年8月1日
政治と生活	『新小説』21-9、1916年9月1日
アメリカニズムとパンアメリカニズム	『中央公論』31-11、1916年10月1日
二大政党制樹立の機運	『新小説』21-10、1916年10月1日
近代国家に於ける政論の地位及使命	『新小説』21-11、1916年11月1日
多数政治の指導者としてのウイルソン	『新小説』21-12、1916年12月1日
輿論政治の将来	『新小説』22-1、1917年1月1日
政党界の近状と我国憲政の前途	『中央公論』32-2、1917年2月1日
国家生活と共同体観念	『新小説』22-3、1917年2月1日
岐路に立てる我国の憲政	『大学評論』1-3、1917年3月1日
世界の民主化的傾向と露西亞最近の革命	『中央公論』32-4、1917年4月1日
臨時外交調査委員会の政治的価値と之に対する加藤氏及び犬養氏の態度	『中央公論』32-7、1917年7月1日

『大山郁夫著作集 第2巻』岩波書店、1987年12月21日

デモクラシーの政治哲学的意義	『大学評論』1-7、10、11、1917年7月1日、10月1日、11月1日
大学と社会	『新小説』22-11、1917年10月1日
シカゴ大学の思ひ出	『大学及大学生』1、1917年11月1日
現代公共生活の諸相	『新小説』22-13、1917年12月1日
世界に於ける政治の民衆化傾向及び其特徴的諸現象	『中外』1-3、1917年12月1日
現代日本に於ける政治的進化と其社会的背景	『中央公論』33-1、1918年1月1日
現政局の行詰りと混沌状態とを救済すべき民本主義の使命	『大学評論』2-1、1918年1月1日
転換期に瀕せる民衆政治—英独二国に於ける政治的傾向に関する考察—	『新小説』23-2、1918年2月1日
現下の我政界の活画	『中央公論』33-2、1918年2月1日
官僚思想の解剖	『大学評論』2-3、4、1918年3月1日、4月1日
露国過激派の実勢力に対する過小視と其政治思想の価値に対する過大視	『中央公論』33-5、1918年5月1日
責任感の稀薄なる我国政治家の言論—寺内首相失言問題に関する考察—	『中央公論』33-7、1918年7月1日
理想政治及び現実政治の二大勢力の衝突	『中央公論』33-9、1918年8月1日
出兵の経過を顧みて日、米の対露外交を批判す	『大学評論』2-9、1918年9月1日
米騒動の社会的及び政治的考察	『中央公論』33-10、1918年9月1日
今次政変の誘因、経過、及び帰結に関する考察	『中央公論』33-11、1918年10月1日

国際政治上の新紀元と日本の政治的将来	『中央公論』34-1、1919年1月1日
世界的背景の前に立てる我国の憲政	『大学評論』3-2、1919年2月1日
米国の代表的公民ローズヴェルト	『我等』1-1、1919年2月11日
新旧二種の国家主義の衝突	『中央公論』34-3、1919年3月1日
民衆政治と国民文化	『我等』1-2、1919年3月1日
民族主義と国際主義—その講和会議に於ける曲折—	『我等』1-3、1919年3月15日
社会的傾向としての政治家及び文芸家の接近	『我等』1-5、1919年4月15日
政客の喧嘩と国民の冷静	『我等』1-6、1919年5月1日

『大山郁夫著作集 第3巻』岩波書店、1988年1月29日

社会改造の根本精神	『我等』1-10、1919年8月1日
知識階級と労働者	『我等』1-11、1919年9月1日
労働問題の文化的意義	『我等』1-12、1919年10月1日
文化要素としての労働者	『我等』1-13、1919年11月1日
労働者と教育—官僚式教育の破産—	『我等』1-14、1919年12月1日
労働問題と教育問題との交錯—文化価値創造の上に於ける労働者の貢献—	『我等』2-1、1920年1月1日
民衆文化の世界へ	『中央公論』35-1、1920年1月1日
知識階級の自覚といふこと	『雄弁』11-2、1920年2月1日
研究の自由と研究発表の自由—森戸助教授筆禍論—	『新小説』25-2、1920年2月1日
社会科学に於ける研究の自由—思想言論の自由	『我等』2-3、1920年3月1日
議会解散の—批判	『我等』2-4、1920年4月1日
民衆文化の帰趨と教育	『我等』2-5、1920年5月1日
現代社会生活と知識階級	『解放』2-6、1920年6月1日
民衆文化主義と自分—権田保之助氏の批難に答ふ	『我等』2-7、1920年7月1日
議会に対する批難とその改造の方向	『雄弁』11-7、1920年7月1日
民衆文化の社会心理的考察	『中央公論』35-8、1920年7月15日
教育上の迷信及び迷信破壊	『我等』2-10、1920年10月1日
婦人の商品性とその人間性—女子教育に関する一考察—	『婦人公論』5-12、1920年12月1日
社会制度と社会思想	『我等』3-1、1921年1月1日
社会思想に於ける理想主義の弱点	『我等』3-2、1921年2月1日
政治否定の傾向	『大観』4-2、1921年2月1日
社会観察に於ける科学的態度	『我等』3-3、1921年3月1日
征服国家から国際社会まで—太平洋会議を背景として—	『中央公論』36-10、1921年9月1日

『大山郁夫著作集 第4巻』岩波書店、1987年10月30日

政治の社会的基礎	同人社書店、1923年2月 日
序論 現代の社会的諸傾向と政治学との交渉 1 現代政治思想の主流とその破綻 2 政治思想に於ける理想主義及び理知主義の陥穽 3 政治学に於ける社会心理的研究の必要 4 社会心理的現象と科学的社會思想 5 社会進化を背景としての政治現象の考察	現代の社会的諸傾向と政治学との交渉『我等』4-7～11、1922年7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日
6 政治学に於ける社会学的諸要素	政治学に於ける社会学的諸要素—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論の—『我等』5-1、1923年1月1日
7 社会群の闘争とその政治的意義	社会群の闘争とその政治的意義—『現代の社会的諸傾向と政治学との交渉』の結論二『我等』5-2、1923年2月1日
第1篇 社会生活と政治現象	
1 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(I)	現代文化生活に於ける天才主義『中央公論』37-1、1922年1月1日
2 デモクラシーと天才主義との相反及び交錯(II)	天才主義と現代の政治及び社会生活『中央公論』37-4、1922年4月1日

3 知識崇拜の迷信と階級意識	智識階級崇拜の迷信と階級意識『大観』5-4、1922年4月1日
4 現代政治に於ける民族意識と階級関係	現代政治に於ける民族と階級との関係『中央公論』38-3、1923年3月1日
第2篇 国際政局の進展	
1 主権の学説と国際主義の新展開	『我等』4-2、1922年2月1日
2 強国の弱点	『我等』4-3、1922年3月1日
3 大戦後に於ける国際政局の新展開(Ⅰ) ーワシントン会議を中心としてー	大戦後に於ける国際政局の新展開『解放』4-3、1922年3月1日
4 大戦後に於ける国際政局の新展開(Ⅱ) ージェノア及びヘーグの二会議を中心としてー	ジェノア及びヘーグの二会議を背景としての国際政局の一考察『解放』4-9、1922年9月1日
第3篇 現代日本の政治生活	
1 明治時代に於ける政治外交の基調、	『解放』3-10、1922年10月1日
2 現代日本に於ける政治的実践の移動	社会的経済力の表現としての現実政治ー現政局の総合的批判ー『中央公論』36-7、1921年7月1日

『大山郁夫著作集 第5巻』 岩波書店、1988年4月28日

政治学改造の原理	『最近時代思潮論集』国際聯盟協会、1922年11月1日
現代日本の政治過程 及びその将来への展開	改造社、1925年5月18日
最近に於ける社会思想及び政治事実の進展ー序文に代へてー	
社会思想の現実化傾向	『中央公論』40-3、1925年3月1日
普通選挙と無産階級政党	『我等』6-11、1924年12月1日
本論 現代日本の政治過程	現代政局の上に作用する政治意識の種々相及びその将来への展開『中央公論』39-4、1924年4月1日
補論 多元的国家観の法理 クラッペの『近代国家観』	『我等』6-4～8、1924年5月1日、6月1日、8月1日、9月1日
付録 現政局批判に関する若干の文書材料	
国家学	<講義案謄写版>1922年頃

『大山郁夫著作集 第6巻』 岩波書店、1988年2月29日

女性文化に対する一考察	『国民新聞』1922年2月13日
「人間性」と階級的立場	『新潮』37-5、1922年11月1日
婦人の個人的解放とその社会的解放	『婦人公論』7-13、1922年12月1日
社会科学に対する興味の抬頭	『我等』5-4、1922年4月1日
社会科学の障碍とその排除	『我等』5-5、1922年5月1日
大学の使命とその社会的意義	青潮社出版部、1923年7月10日
学者と実行運動との関係に就いての考察	『我等』5-9、1923年9月1日
政治研究会の進むべき道	『政治研究会会報』1、1923年8月15日
大学生運動の新展開及びその社会的意義ー『社会科学の人生価値』前論	『改造』6-9、1924年9月1日
教育の社会性と国家性ー教育界当面の重大問題としての軍事教育計画ー	『我等』6-10、1924年11月1日
無産階級政党の社会進化上における意義	『改造』6-12、1924年12月1日
我国の教育界が直面する一緊急問題 所謂軍事教育問題を を中心として	『中央公論』39-13、1924年12月1日
学生の社会意識と当局の階級的専制 社会科学研究団体 に対する文部省の圧迫	『中央公論』40-1、1925年1月1日
呪われたる治安維持法案	『改造』7-3、1925年3月1日
政治過程の盲目的進行に対する意識的統制の必要及び その目標	『改造』7-4、1925年4月1日
新政治意識の発生と無産政党の前途	『中央公論』40-5、1925年5月1日
新政治意識の倫理的基礎ー序論 無産政党運動に付帯する 政治教育上の重要問題	『改造』7-7、1925年7月1日

無産政党運動の基調としての新政治意識－『新政治意識の倫理的基礎』続篇－	『改造』7-8、1925年8月1日
政治的旧勢力への最初の一撃－無産政党出現の機運と政治的雰囲気の廓清－	『中央公論』40-10、1925年9月1日

『大山郁夫著作集 第7巻』 岩波書店、1988年5月31日

無産階級倫理の基調	『早稲田政治経済学雑誌』2、1925年10月15日
農民労働党の解散と支配階級心理	『中央公論』41-1、1926年1月1日
無産階級運動の理論と実際－雑誌『大衆』の創刊に際して－	『大衆』1-1、1926年3月1日
現実主義の陥穽－第二次無産政党組織途上の障碍への警戒－	『改造』8-3、1926年3月1日
所謂「現実主義」の唯物弁証法的解釈	『大衆』1-3、1926年5月1日
無産階級政治運動上に於ける理論闘争の諸条件の形成過程	『中央公論』41-5、1926年5月1日
帝国主義の支配下に於ける社会科学研究の「自由」	『改造』8-7、1926年7月1日
科学の社会性 社会的進歩の促進力としての科学の本質に関する或る考察	『中央公論』41-9、1926年9月1日
労農党の分裂が暗示する無産政党運動の前途	『中央公論』41-12、1926年12月1日
早稲田の学徒に与ふ	『改造』9-3、1927年3月1日
無産政党論	『社会問題講座第 第13巻』新潮社、1927年6月8日